

現代朝鮮語における〈n挿入〉の実現実態について (1) : 若年層ソウル方言話者を対象に

辻野, 裕紀
九州大学大学院言語文化研究院

<https://hdl.handle.net/2324/1687768>

出版情報 : 朝鮮学報. 232, pp.1-57, 2014-07. 朝鮮学会
バージョン :
権利関係 :

現代朝鮮語における 〈n 挿入〉の実現実態について(1)

——若年層ソウル方言話者を対象に——

辻 野 裕 紀

【要旨】本稿の目的は、現代朝鮮語における、若年層（20代）ソウル方言話者の〈n 挿入〉の実現実態を闡明するところにある。

先行研究が指摘するように、〈n 挿入〉には世代差や方言差が認められる。しかし、その仔細な調査は十分には行なわれておらず、〈n 挿入〉の実現実態は明らかになっているとは言い得ない。そこで、本研究では、若年層ソウル方言話者に対象を絞り、〈固有語合成語〉、〈固有語置語〉、〈固有語単語+ (ㅇ)요〉、〈漢字語合成語〉、〈漢字語人名〉、〈姓+肩書等〉、〈姓名+肩書等〉、〈姓名+역(訳)〉、〈本貫+姓〉、〈漢数詞〉における〈n 挿入〉の実現実態について、インフォーマント調査とその分析を行なった。

その結果、若年層ソウル方言話者の〈n 挿入〉の実現如何には、総じて後行要素の頭音が最も大きく関わっていること、また、他にも後行要素の長さ、先行要素の末音、なじみ度、語構造、後行要素の第1音節の音節構造、語の長さなどといった多種多様な要因が抗衡しつつ、重層的に関与していることが明らかになった。若年層ソウル方言話者のこうした〈n 挿入〉の実現様相は、いわゆる規範と懸隔しており、社会言語学的にも興味深いものである。

1. はじめに

1.1. 本稿の目的

本稿の目的は、現代朝鮮語における所謂〈n 挿入〉、就中、若年層（20代）ソウル方言話者の〈n 挿入〉の実現実態を明らかにするところにある。

1.2. 〈n挿入〉とは何か

現代朝鮮語において2つの形態素が結合する際に、①先行要素が子音で終わり、②後行要素が⁽¹⁾/i/か/y/で始まり、かつ③後行要素が自立的形態素である場合、/i/や/y/の直前に/n/が挿入されることがある。これを〈n挿入〉(n-insertion)と称す。〈n挿入〉は、音韻論的条件(①②)と形態論的条件(③)の双方がその実現如何を統べる〈形態音韻論的現象〉である。以下、例を挙げる：

솜[so:m]《綿》+이불[ibul]《布団》
→솜이불[so:mnibul]《綿入りの布団》
국민[kuŋmin]《国民》+윤리[julli]《倫理》
→국민윤리[kuŋminjulli]《国民倫理》
막-[ma]《荒い》+일[i:l]《仕事》→막일[maŋnil]《荒仕事》

1.3. 問題の所在

ところで、〈n挿入〉は上記の①②③の条件を満たしていさえすれば常に起きるというわけではない。換言するならば、上の諸条件は〈n挿入〉が起きるための必要条件に過ぎず、方言差は然ることながら、同一の方言内であっても世代差が認められる。ソウル方言の場合は、若い層の話者ほど〈n挿入〉が起きにくくなっていることが指摘されており⁽³⁾、漸次、生じない方向に進んでいることが予想される⁽⁴⁾。しかし、その仔細な実態調査は十分には行なわれておらず、국립국어연구원(1997, 2002, 2003)、국경아・김주원・이호영(2005)などいくつかの報告があるのみである。また、これら既存の研覈も、調査語彙数や調査人数、調査方法などといった点で問題を孕んでおり、アド・ホックな指摘に終始しているように思われる。〈n挿入〉のように揺れが著しい現象について正確な分析を行うためには、特に語彙数が要諦となる。

そこで筆者は、〈n挿入〉の実現実態を余蘊なく究明し、その総体に肉迫するために、固有語、漢字語、外来語、混種語、句のすべてを対象として、〈n挿入〉が起きる可能性のある語句(全1025個)について網

羅的に調査を行なった。インフォーマントは20代のソウル方言話者⁽⁵⁾ 33名(男14名, 女19名)であり, 2013年3月および9月にソウル特別市の2つの大学(誠信女子大学校, 崇実大学校)で調査を実施した。⁽⁶⁾ 調査方法は, 筆者が事前に準備した調査票の⁽⁷⁾ 語句をインフォーマントに読み上げてもらい, いわゆる〈読み上げ式〉を採った。基本的にはインフォーマントに単独形を発音してもらい, 必要に応じて, 当該の語句を含む例文全体も読み上げてもらった。⁽⁸⁾

本稿では, この調査結果を言語資料とし, 〈若年層ソウル方言話者〉の発音において, 〈n 挿入〉がいかなる環境で起きやすいか, あるいは起きにくいかについて, 帰納的に稽查する。なお, 紙幅の制限のため, 本稿では固有語と漢字語のみを扱い, 外来語と混種語, 句については稿を改めて論ずることにする。

以下, 固有語と漢字語の各々について調査結果を述べつつ, その分析を行なっていく。なお, 語例を提示するにあたっては, 正書法は関係なく, 1語と考えられるものはすべて続け書き(붙여쓰기)をし,⁽⁹⁾ 〈n 挿入〉が起きる可能性がある位置(形態素境界)を‘-’で示す。ハイフンが⁽¹⁰⁾ 必ずしも語全体の語構造を示すものではないことに留意されたい。

2. 固有語

調査した固有語は全209語である。うち, 合成語189語, 畳語12語, 〈単語+(o)요〉8語である。便宜上, 複合語と派生語は「合成語」としてまとめて扱い, 必要な場合のみ, 区別して論ずる。⁽¹¹⁾

2.1. 固有語合成語

固有語合成語については, 全189語を調査した。

固有語合成語において, 〈n 挿入〉の実現如何に最も大きく関わっていると考えるのは, 「後行要素の頭音」と「後行要素の長さ」(後行要素の頭音が /i/ の場合)である。⁽¹²⁾

まず, 後行要素の頭音に着目すると, それが /y/ の場合, 〈n 挿入〉が起きやすい。後行要素が /y/ で始まる固有語合成語の〈n 挿入〉平均実

現率は、⁽¹³⁾86.3%である。

一方、後行要素の頭音が /i/ の場合は、後行要素の長さも〈n 挿入〉の実現如何に關与している。後行要素の長さが1音節(単音節)の場合は〈n 挿入〉が起きやすく、後行要素の長さが2音節以上の場合は起きにくい。後行要素の頭音が /i/ の固有語合成語のうち、後行要素の長さが1音節の場合の〈n 挿入〉平均実現率は73.1%、2音節以上の場合の〈n 挿入〉平均実現率は22.3%である。

ただし、後行要素が ㅁ 《人》 の場合には、長さが1音節であるにもかかわらず、〈n 挿入〉が全く起きない。これは、ㅁ 《人》 がいわゆる依存名詞であり、統辞論的自立性が極めて低いためであろう。1.2. でも触れたように、〈n 挿入〉が生じるためには後行要素が自立的な要素であることが必要であり、このことを改めて確認しえた。後行要素が ㅁ 《人》 の語例を除いた、後行要素の頭音が /i/ でかつ1音節の場合の〈n 挿入〉平均実現率は、81.0%であった。これは非常に高い数字だと言える。

後行要素の長さによって〈n 挿入〉の起きやすさが異なる理由は、〈n 挿入〉の機能が形態素境界表示にある点(辻野裕紀2014: 89-92参照)を想起すれば、容易に推し量られよう。つまり、後行要素が1音節のように極めて短い場合に終声の初声化が生じてしまうと、後行要素の認識がしにくくなり、形態素境界の把握が困難になる。それを防遏するために /n/ が挿入されるのである。一方、後行要素が長ければ、終声の初声化が生じて、後行要素の後ろの方の音連鎖から、後行要素の認識が比較的容易であり、/n/ を挿入する必要性が希薄である。

〈n 挿入〉実現率が50%未満のものを「〈n 挿入〉が起きにくい」、〈n 挿入〉実現率が50%以上のものを「〈n 挿入〉が起きやすい」と目し、以上のことを整理すると、固有語合成語における〈n 挿入〉実現の大きな傾向は次の通りである：

①後行要素の頭音が /y/ の場合 → 〈n 挿入〉が起きやすい

②後行要素の頭音が /i/ でかつ後行要素の長さが1音節の場合

→ 〈n 挿入〉が起きやすい

現代朝鮮語における〈n 挿入〉の実現実態について(1) (辻野裕紀) (5)

③後行要素の頭音が /i/ でかつ後行要素の長さが2音節以上の場合

→ 〈n 挿入〉が起きにくい

以下, ①②③各々について, 具体語例を挙げつつ, 確認および検討をしていこう。

2.1.1. 後行要素の頭音が /y/ の固有語合成語

後行要素の頭音が /y/ の固有語合成語の具体語例とその 〈n 挿入〉 実現率等は次の通りである：

①後行要素の頭音が /y/ の固有語合成語 (全49語) : 〈n 挿入〉 平均実現率86.3%

(14) 語	日本語訳	(15) n	(16) 終	(17) 休
갱-엿 (○)	黒い飴	100.0%	0.0%	
검은-엿 (○)	黒い飴	100.0%	0.0%	0.0%
남-얘기 (?)	他人の話	100.0%	0.0%	0.0%
뒷-얘기 (○)	後日談	100.0%	0.0%	0.0%
말-여물 (○)	まぐさ	100.0%	0.0%	0.0%
물-여우 (○)	カワムシ	100.0%	0.0%	0.0%
물-여울 (○)	瀬	100.0%	0.0%	0.0%
물-엿 (○)	水飴	100.0%	0.0%	0.0%
봄-여름 (○)	春夏	100.0%	0.0%	0.0%
불-여우 (○)	気まぐれで意地の悪い女	100.0%	0.0%	0.0%
새앙-엿 (○)	生姜の飴	100.0%	0.0%	
서른-여섯 (?)	36	100.0%	0.0%	0.0%
쉰-여섯 (?)	56	100.0%	0.0%	0.0%
스물-여섯 (?)	26	100.0%	0.0%	0.0%
암-여의 (○)	雌しべ	100.0%	0.0%	0.0%
얼음-엿 (○)	飴の一種	100.0%	0.0%	0.0%
열-여덟 (?)	18	100.0%	0.0%	0.0%
올-여름 (○)	今年の夏	100.0%	0.0%	0.0%
(18) 일-여덟 (×)	7つか8つ	100.0%	0.0%	0.0%

콩-엿 (○)	炒り豆の入った飴	100.0%	0.0%	
된-여울 (○)	早瀬	97.0%	3.0%	0.0%
밤-웃 (○)	ユンノリの采	97.0%	3.0%	0.0%
살-여울 (○)	早瀬	97.0%	3.0%	0.0%
엿신-여기다 (○)	⁽¹⁹⁾ 無みする	97.0%	3.0%	0.0%
옛날-얘기 (?)	昔話	97.0%	0.0%	3.0%
한-여름 (○)	真夏	97.0%	3.0%	0.0%
밤-엿 (○)	飴の一種	93.9%	6.1%	0.0%
삼-여물 (○)	壁塗りの材料	93.9%	3.0%	3.0%
안-여닫이 (○)	部屋の内側に開閉する扉	93.9%	6.1%	0.0%
한-옆 (○)	片隅	93.9%	6.1%	0.0%
눈-여겨보다 (○)	注視する	90.9%	9.1%	0.0%
말-여뀌 (○)	イヌタデ	90.9%	9.1%	0.0%
흰-엿 (○)	白飴	90.9%	9.1%	0.0%
밥-얘기 (?)	ごはんの話	87.9%	9.1%	3.0%
실-여치 (○)	ツユムシ	87.9%	12.1%	0.0%
도리꺾-열 (○)	殼竿の打ち木	84.8%	15.2%	0.0%
손톱-여물 (×)	齒で手の爪をしきりに噛むこと	81.8%	0.0%	18.2%
꽃-여뀌 (○)	サクラタデ	78.8%	15.2%	6.1%
첫-여름 (○)	初夏	78.8%	12.1%	9.1%
참-열매 (○)	真果	75.8%	24.2%	0.0%
늦-여름 (○)	晩夏	72.7%	21.2%	6.1%
겉-여물다 (○)	(穗が) 外側だけ熟する	63.6%	30.3%	6.1%
단-양념 (○)	甘みを出すヤンニョム	60.6%	39.4%	0.0%
이삭-여뀌 (○)	ミズヒキ	48.5%	48.5%	3.0%
숫-염소 (○)	雄山羊	45.5%	51.5%	3.0%
겉-약다 (○)	賢そうだが愚かだ	36.4%	63.6%	0.0%
헛-열매 (○)	偽果	36.4%	60.6%	3.0%
뚝-양태 (○)	滑鯛	33.3%	54.5%	12.1%
갓-양태 (○)	カッ(冠)のひさし	24.2%	75.8%	0.0%

上の表から、後行要素の頭音が /y/ の固有語合成語では、総じて <n 挿入> が起きやすいことを確認する。

しかし、中には、〈n挿入〉が起きにくい語もいくつか含まれる。이삭-여뀌 (48.5%), ㅅ-염소 (45.5%), 길-약다 (36.4%), 헛-열매 (36.4%), ㅁ-양태 (33.3%), ㅈ-양태 (24.2%) といった語である。これらがなぜ例外的な振る舞いをしているのか、その原因を探ってみよう。

これらの語例のうち、이삭-여뀌 (48.5%) とㅅ-염소 (45.5%) に共通しているのは、先行要素の末音が閉鎖音という点である。一方、〈n挿入〉実現率が90%以上の語例を見てみると、そのほとんどが先行要素の末音が共鳴音であり、先行要素の末音(共鳴音か閉鎖音か)も〈n挿入〉の実現如何に影響を与えているものと思われる。後行要素の頭音が /y/ の固有語合成語のうち、先行要素の末音が共鳴音の語の〈n挿入〉平均実現率は95.8%だが、先行要素の末音が閉鎖音の語の〈n挿入〉平均実現率は62.3%であり、約35%もの懸隔が認められる。

また、〈n挿入〉実現率がより低い길-약다 (36.4%), 헛-열매 (36.4%) は、先行要素の末音が閉鎖音である点に加え、派生語であるという共通点がある。

派生語は複合語に比べて要素間の結びつきが強い。接頭派生語の場合、接尾派生語と異なり、結びつきの強弱の差異が音韻論的に反映されないが、一方の要素が依存形態素である派生語が、双方の要素が自立形態素である複合語に比べて構成要素間の結合度が強いことは容易に察せられるところである。⁽²¹⁾先行要素の末音が閉鎖音ということに加えて、派生語であるということが、길-약다, 헛-열매の〈n挿入〉実現率の低さにつながったものと思われる。実際、後行要素の頭音が /y/ の固有語複合語の〈n挿入〉平均実現率は90.5%なのに対し、固有語派生語の〈n挿入〉平均実現率は67.4%であり、約23%の開きが認められる。

ㅁ-양태 (33.3%) に関しては、先行要素の末音が閉鎖音という点に加えて、「なじみ度」とも関わりがあるものと思われる。ㅁ《帆》も양태《鯛》も共に自立的な単語であり、ㅁ-양태が2つの語からなる複合語であることは紛れもない事実である。しかし、一般的な20代ソウル方言話者にとって、ㅁ-양태はあまりなじみのない語であろう。こうした語は、いわば「耳」で聞いて覚えたものではなく、文字を通して「目」

で記憶したものである。このような場合、インフォーマントは〈n挿入〉ではなく、終声の初声化を志向する傾向があるのではないかと考えられる。⁽²²⁾ ㄹ+양태の如く分析的に捉えているのではなく、ㄹ-양태全体を1つの塊として認識しているからである。⁽²³⁾ なじみ度によって〈n挿入〉の実現様相が変わることは、ㄹ-양태を、なじみ度の高い語である 뒷-애기(100.0%)、밥-애기(87.9%)など(いずれも先行要素の末音は閉鎖音)と比較すれば明らかである。なお、同じくなじみ度が高く音韻論的環境も類似した 첫-여름(78.8%)、늦-여름(72.7%)の〈n挿入〉平均実現率が、뒷-애기(100.0%)などに比べてやや下がるのは、これらが派生語だからであろう。

갓-양태(24.2%)における〈n挿入〉平均実現率の低さも、先行要素の末音が閉鎖音であることに加え、なじみ度が関与している。갓-양태は明らかに日常語ではなく、おそらく文字を通じて記憶している語であって、終声の初声化を志向するインフォーマントは、갓-양태全体をあたかも1つの形態素のように捉えているのである。⁽²⁴⁾ あるいは、「文字読み」をしている可能性もある。

このように見てくると、後行要素が /y/ で始まる場合は、全体的に〈n挿入〉実現率が高く、後行要素の頭音が〈n挿入〉の実現如何に最も大きな影響を与えていることは確かだが、それ以外に、次の3点も関与しているといえる：

先行要素の末音(共鳴音か閉鎖音か)

語構造(複合語か派生語か)

語のなじみ度

それでは、これらのうち、各々の関係はどうなっているのだろうか。階層をなしているのだろうか、あるいはそれぞれ同程度の影響力を持っているのだろうか。

まず、先行要素の末音に着目すると、既に述べた通り、共鳴音の場合の〈n挿入〉平均実現率は95.8%であるのに対し、閉鎖音の場合の〈n

現代朝鮮語における〈n 挿入〉の実現実態について(1) (辻野裕紀) (9)

挿入) 平均実現率は62.3%であり、約34%の逕庭が認められる。

語構造については、複合語の〈n 挿入〉平均実現率が90.5%、派生語の〈n 挿入〉平均実現率が67.4%で、その差異は約23%である。したがって、先行要素の末音ほどの影響は与えていないものと思われる。

語のなじみ度に関しては、客観的な数値化はできないが、물-여우,⁽²⁵⁾ 암-여의などのように、なじみ度が低そうな語であっても、先行要素の末音が共鳴音のものはすべて〈n 挿入〉実現率が極めて高いことから、なじみ度よりも先行要素の末音の影響力のほうが大きいと言いうる。また、첫-여름 (78.8%) や늦-여름 (72.7%) のようななじみ度の高い派生語と、뚫-양태 (33.3%) や갓-양태 (24.2%) のようななじみ度の低い複合語とを比べると、前者のほうが後者よりも圧倒的に〈n 挿入〉が起きやすいことから、なじみ度は、語構造よりも〈n 挿入〉の実現如何に大きな影響を及ぼしているものと考えうる。

以上のことを勘案すると、〈n 挿入〉実現如何に影響を与える二次的
な要因は、概ね次のような階層をなしていると考えられる⁽²⁶⁾：

先行要素の末音>語全体のなじみ度>語構造

尤もこれは絶対的なものではなく、大まかな傾向であり、これらの相互作用によって〈n 挿入〉実現如何が決定されると言いうる。

2.1.2. 後行要素の頭音が /i/ であつ後行要素の長さが1音節の固有語合成語

後行要素の頭音が /i/ であつ後行要素の長さが1音節の固有語合成語の具体語例とその〈n 挿入〉実現率等は次の通りである：

②後行要素の頭音が /i/ でかつ後行要素の長さが 1 音節の固有語合成語(全 61 語) :
⁽²⁷⁾
 (n 挿入) 平均実現率 73.1%

語	日本語訳	n	終	休
굿은-일 (○)	死者を葬る仕事	100.0%	0.0%	0.0%
꽃-일 (○)	花びら	100.0%	0.0%	0.0%
나뭇-일 (○)	木の葉	100.0%	0.0%	0.0%
돈-일 (○)	硬貨の一枚	100.0%	0.0%	0.0%
⁽²⁸⁾ 떡-일 (○)	双葉	100.0%	0.0%	0.0%
배춧-일 (?)	白菜の葉	100.0%	0.0%	0.0%
솔-일 (○)	松の葉	100.0%	0.0%	0.0%
수숫-일 (?)	キビの葉	100.0%	0.0%	0.0%
오동-일 (?)	桐の葉	100.0%	0.0%	
허드렛-일 (○)	雑役	100.0%	0.0%	0.0%
뒷-일 (○)	あとのこと	97.0%	3.0%	0.0%
들-일 (○)	野良仕事	97.0%	3.0%	0.0%
마을-일 (?)	村仕事	97.0%	3.0%	0.0%
바늘-일 (○)	針葉	97.0%	3.0%	0.0%
버들-일 (○)	柳の葉	97.0%	3.0%	0.0%
집안-일 (○)	家事	97.0%	3.0%	0.0%
마른-일 (○)	手を水にぬらさないでする仕事	93.9%	6.1%	0.0%
맨-일 (○)	空腹	93.9%	6.1%	0.0%
앉은-일 (○)	座り仕事	93.9%	6.1%	0.0%
한-일 (○)	一口	93.9%	6.1%	0.0%
갈-일나무 (○)	落葉樹	90.9%	9.1%	0.0%
겉-일 (○)	若葉の外側の葉	90.9%	9.1%	0.0%
마른-일 (?)	枯葉	90.9%	3.0%	6.1%
바깥-일 (○)	屋外の仕事	90.9%	9.1%	0.0%
밤-일 (○)	夜の仕事	90.9%	9.1%	0.0%
베갯-잇 (○)	まくらカバー	90.9%	6.1%	3.0%
안-일 (○)	家事	90.9%	9.1%	0.0%
어린-일 (○)	嫩葉	90.9%	9.1%	0.0%
이불-잇 (○)	布団カバー	90.9%	9.1%	0.0%
남-일 (?)	他人のこと	87.9%	12.1%	0.0%

現代朝鮮語における〈n 挿入〉の実現実態について(I) (辻野裕紀) (11)

먼-일 (○)	遠い先のこと	87.9%	12.1%	0.0%
아욱-일 (?)	葵の葉	87.9%	12.1%	0.0%
앞-일 (○)	これから先のこと	84.9%	12.1%	3.0%
진-일 (○)	生または塩漬けにした青菜の葉	84.9%	15.2%	0.0%
땀-일 (○)	はんだ付け	81.8%	18.2%	0.0%
머윗-일 (○)	フキの葉	81.8%	18.2%	0.0%
밭-일 (○)	畑仕事	78.8%	21.2%	0.0%
헛-일 (○)	無駄なこと	78.8%	21.2%	0.0%
군-일 (○)	無駄な仕事	75.8%	24.2%	0.0%
군-입 (○)	何も食べていないこと	75.8%	24.2%	0.0%
속-일 (○)	内側の葉	75.8%	21.2%	3.0%
감-일차 (○)	柿の葉のお茶	72.7%	27.3%	0.0%
여름-일 (○)	草取りなど夏にする農作業	72.7%	27.3%	0.0%
헛-일 (○)	仮葉	69.7%	30.3%	0.0%
부엌-일 (○)	台所の仕事	66.7%	33.3%	0.0%
마른-입 (○)	汁気なしで食べること	63.6%	36.4%	0.0%
낮-일 (○)	昼間の仕事	60.6%	39.4%	0.0%
선-일 (○)	立ち仕事	57.6%	42.4%	0.0%
삿-일 (○)	賃仕事	54.5%	39.4%	6.1%
미장-일 (○)	左官仕事	48.5%	51.5%	
손-일 (○)	手仕事	48.5%	51.5%	0.0%
막-일 (○)	荒仕事	36.4%	63.6%	0.0%
흙-일 (○)	壁を塗る仕事	33.3%	66.7%	0.0%
큰-일② (○)	重要な儀式	12.1%	87.9%	0.0%
큰-일① (×)	たいへんなこと	3.0%	97.0%	0.0%
늙은-이 (×)	年寄り	0.0%	100.0%	0.0%
듣는-이 (?)	聞き手	0.0%	100.0%	0.0%
쓰는-이 (?)	書き手	0.0%	100.0%	0.0%
어린-이 (×)	子ども	0.0%	100.0%	0.0%
젊은-이 (×)	若者	0.0%	100.0%	0.0%
지은-이 (×)	作者	0.0%	100.0%	0.0%

上の表から、後行要素の頭音が /i/ でかつ後行要素の長さが 1 音節の固有語成語では、総じて 〈n 挿入〉が起きやすいことを確認する。

一方、これらの語のうち、미장-일 (48.5%), 손-일 (48.5%), 막-일 (36.4%), 흥-일 (33.3%), 큰-일^② (12.1%), 큰-일^① (3.0%) といった語は〈n 挿入〉⁽²⁹⁾が起きにくい。これらについて考察してみよう。

まず, 막-일 (36.4%), 흥-일 (33.3%) については, 先行要素の末音が閉鎖音であることが〈n 挿入〉実現率の低さに繋がっているものと思われる。先行要素の末音が閉鎖音であっても, 꽃-일, 나뭇-일, 떡-일, 배춧-일, 수숫-일, 허드렛-일のように, 〈n 挿入〉が100.0%起きる語もあるが, これらは허드렛-일以外すべて後行要素が일《葉》であるという特徴がある。일은中期語ではㅛであり, /n/ が挿入されたというよりも, 合成語全体がそのまま現代語に残り, その中に古形の /n/ が維持されていると考えることもできるであろう。

このように考えると, 従来〈n 挿入〉という名付けで以って一様に扱われてきたものには, 性質の異なる2種のものが混在していると言える。1つは純粹な共時的規則によって /n/ が挿入されているもの, もう1つは古い時代の /n/ がそのまま合成語の中に維持され, 語形全体がそのまま話者の脳に記憶されているものである。中には中期語に直接繋がっているわけではなく, 現代の若年層ソウル方言話者よりも上の世代において類推により /n/ が挿入された語もあるだろうが, 当該の合成語全体が固定化されたものがそのまま踏襲されているという点で同じである。共時的に見る限り, この両者を截然と分けることは極めて困難であり, 本稿では具体的な語について, どこからどこまでが共時的規則によるもので, どこからどこまでが化石化された語彙的なものなのかの井然たる線引きは行わないが, 先行要素の末音の種類を問わず, ほぼ例外なく /n/ が挿入される, 後行要素が일の一連の語については, 語彙化したものである可能性が極めて高い。

미장-일の〈n 挿入〉実現率の低さについても, 先行要素の末音と関わりがあろう。미장-일은, 先行要素の末音が /ŋ/ である。先行要素の末音が /ŋ/ の場合, 終声の初声化⁽³¹⁾が起きることは原理的になく, 音節構造の変容が生じない。つまり, /n/ を挿入しなくとも, 音節境界と形態素境界の不一致が生じえず, この点において, 先行要素の末音が /ŋ/ の

場合の〈n 挿入〉は機能的に剰余的である。こうした理由で, 미장-일 の〈n 挿入〉実現率が低くなっているものと思料される。

손-일의〈n 挿入〉実現率が低い理由については, 손-일이〈1 音節+1 音節〉という構造をしており, かつ先行要素の末音が /n/ であることが関与している可能性がある。現代語において外来語等を除き, 語頭には /ni/ という音節が立たないために, 当該の語が合成語であることを前提とすれば, [손닐]ではなく[소닐]と発音しても, 語構造が「소+닐」である可能性はなく, 「손+일」だと形態素境界が一意的に決まる。⁽³²⁾ 선-일 《立ち仕事》の〈n 挿入〉実現率も 57.6%と, 50%を超えてはいるものの, ②の語彙の中では相対的に決して高い数字ではなく, このことも傍証となるだろう(앉은-일 《座り仕事》の〈n 挿入〉実現率が 93.9%であることと比べられたい)。しかし一方で, 音韻論的環境がこれらと類似した안-일 (90.9%), 먼-일 (87.9%) などでは, 〈n 挿入〉実現率が非常に高く, なぜ손-일, 선-일と안-일, 먼-일でこれほど大きな差が生じるのか説明がつかない。ここでは上の理由は 1つの可能性として提示するに留めておくと, 〈n 挿入〉の機能が境界表示にあることを考えれば, 十分にありうることだと思われる。

큰-일には, 《重要な儀式》と《たいへんなこと》という 2つの意味があり,⁽³³⁾ 辞書によっては各々別の見出し語として立項しているものもある。規範的な発音では前者は /n/ が挿入され, 後者は挿入されないが, 本調査ではいずれも〈n 挿入〉実現率が低く現れた。《たいへんなこと》の意の큰-일은 /n/ が入らない形全体が語彙化しているものと思われる。一方, 《重要な儀式》の意の큰-일で /n/ が入りにくい理由については, 1つには上で述べた손-일で〈n 挿入〉が生じにくいのと同一理由, もう1つにはなじみ度が考えられる。

2.1.3. 後行要素の頭音が /i/ がかつ後行要素の長さが 2 音節以上の固有語合成語

後行要素の頭音が /i/ がかつ後行要素の長さが 2 音節以上の固有語合成語の具体語例とその〈n 挿入〉実現率等は次の通りである：

③後行要素の頭音が /i/ でかつ後行要素の長さが2音節以上の
固有語合成語(全79語): <n 挿入> 平均実現率22.3%

語	日本語訳	n	終	休
아랫-입술 (○)	下唇	93.9%	6.1%	0.0%
논-이야기 (?)	田んぼの話(蔡萬植の小説の題名)	84.8%	15.2%	0.0%
짓-이기다 (○)	こね回す	81.8%	18.2%	0.0%
남-이야기 (?)	他人の話	75.8%	18.2%	6.1%
잔-일사귀 (○)	小さな葉っぱ	72.7%	27.3%	0.0%
맨-이름 (○)	肩書や呼称などをすべて省略して呼ぶ名前	69.7%	30.3%	0.0%
솜-이불 (○)	綿入りの布団	69.7%	30.3%	0.0%
꽃-이슬 (○)	花に宿った露	60.6%	39.4%	0.0%
꿈-이야기 (?)	夢の話	57.6%	9.1%	33.3%
알-이마 (○)	覆われたところがなく露出したひたい	51.5%	42.4%	6.1%
윗-입술 (○)	上唇	51.5%	48.5%	0.0%
꽃-이삭 (○)	花穂	48.5%	51.5%	0.0%
옛날-이야기 (○)	昔話	48.5%	45.5%	6.1%
앞-이마 (○)	額の真ん中	45.5%	54.5%	0.0%
꽃-이름 (?)	花の名前	42.4%	57.6%	0.0%
홀-이불 (○)	一重の掛け布団	42.4%	57.6%	0.0%
바늘-이야기 (?)	針の話(店の名前)	39.4%	57.6%	3.0%
햇-이불 (○)	綿入りの布団	39.4%	60.6%	0.0%
밤-이슬 (○)	夜露	36.4%	63.6%	0.0%
솔-이끼 (○)	スギゴケ	36.4%	63.6%	0.0%
빈-이름 (○)	中身がなく形だけの名前	33.3%	63.6%	3.0%
밥-이야기 (?)	ごはんの話	30.3%	66.7%	3.0%
한-이레 (×)	子どもが生まれて7日目	30.3%	69.7%	0.0%
아들-이삭 (○)	脇から出る稲穂	27.3%	72.7%	0.0%
헛-이름 (○)	虚名	27.3%	72.7%	0.0%
낱-이삭 (○)	個々の穂	24.2%	75.8%	0.0%
센-입천장 (○)	硬口蓋	24.2%	75.8%	0.0%
손-익다 (?)	手慣れる	24.2%	75.8%	0.0%

現代朝鮮語における〈n 挿入〉の実現実態について(1) (辻野裕紀) (15)

옆-이마 (?)	横のひたい	24.2%	72.7%	3.0%
설-익다 (○)	十分に煮えていない	21.2%	78.8%	0.0%
암-이삭 (?)	雌穂	21.2%	78.8%	0.0%
풀-이름 (?)	草の名前	21.2%	78.8%	0.0%
겹-이불 (○)	裏地だけをつけた掛け布団	18.2%	81.8%	0.0%
눈-익다 (?)	見慣れている	18.2%	81.8%	0.0%
늦-익다 (○)	(穀物などが) 遅く実る	18.2%	81.8%	0.0%
군-입정 (○)	つまみ食い	15.2%	84.8%	0.0%
눈-이슬 (×)	涙	15.2%	84.8%	0.0%
뒷-입맛 (○)	後味	15.2%	84.8%	0.0%
여린-입천장 (○)	軟口蓋	15.2%	84.8%	0.0%
옆-잇기 (○)	縫い物や編み物などで横の縫い目をつなげること	15.2%	84.8%	0.0%
차렷-이불 (○)	綿入りの布団	15.2%	81.8%	3.0%
거꿀-잇기 (○)	逆接	12.1%	87.9%	0.0%
속-입술 (○)	唇の口の中の部分	12.1%	87.9%	0.0%
수꽃-이삭 (○)	雄花穂	12.1%	84.8%	3.0%
흰-이삭 (○)	乾いて点々と白く変色した穂	12.1%	87.9%	0.0%
낯-익다 (○)	見慣れている	9.1%	90.9%	0.0%
논-이랑 (○)	田の畝	9.1%	90.9%	0.0%
물-이랑 (○)	船などが通るところに生じる波	9.1%	90.9%	0.0%
밭-이랑 (○)	畑の畝	9.1%	90.9%	0.0%
빗-이음 (○)	端を斜めに切ってくっつけること	9.1%	87.9%	3.0%
새벽-이슬 (○)	明け方の露	9.1%	90.9%	0.0%
숲-이삭사초 (○)	カサスゲ	9.1%	84.8%	6.1%
윗-잇몸 (○)	上歯茎	9.1%	90.9%	0.0%
털-이슬 (○)	ミズタマソウ	9.1%	90.9%	0.0%
거름-이영 (○)	麻幹で編んだ苫	6.1%	90.9%	3.0%
날-일꾼 (○)	日雇い労働者	6.1%	93.9%	0.0%
췌-일곱 (?)	57	6.1%	90.9%	3.0%
첫-이레 (○)	子どもが生まれて7日目	6.1%	93.9%	0.0%
열-일곱 (?)	17	3.0%	90.9%	6.1%

값-있다 (×)	値打ちがある	0.0%	100.0%	0.0%
곧-이어 (×)	引き続き	0.0%	100.0%	0.0%
끝말-잇기 (○)	しりとり	0.0%	100.0%	0.0%
남땀-인두 (×)	はんだごて	0.0%	100.0%	0.0%
뒹박-이마 (○)	升を伏せて置いたような形のひたい	0.0%	100.0%	0.0%
땅-이름 (?)	土地の名前	0.0%	100.0%	
땅-임자 (○)	地主	0.0%	100.0%	
땀-인두 (×)	はんだごて	0.0%	100.0%	0.0%
뜻-있다 (×)	意義のある	0.0%	⁽³⁴⁾ 100.0%	0.0%
멋-있다 (×)	かっこいい	0.0%	⁽³⁵⁾ 100.0%	0.0%
벼짚-이엉 (×)	稲藁で編んだ苫	0.0%	100.0%	0.0%
빛-있다 (×)	美しい	0.0%	⁽³⁶⁾ 100.0%	0.0%
사람-이름 (?)	人の名前	0.0%	100.0%	0.0%
서른-일곱 (?)	37	0.0%	100.0%	0.0%
스물-일곱 (?)	27	0.0%	100.0%	0.0%
아침-이슬 (?)	朝露	0.0%	100.0%	0.0%
일곱-이레 (○)	子どもが生まれて49日目	0.0%	100.0%	0.0%
저녁-이내 (?)	夕靄	0.0%	100.0%	0.0%
지멸-있다 (×)	粘り強く誠実だ	0.0%	100.0%	0.0%
힘-입다 (○)	恩恵を被る	0.0%	100.0%	0.0%

上の表から、後行要素の頭音が /i/ でかつ後行要素の長さが 2 音節以上の固有語合成語では、総じて〈n 挿入〉が起きにくいことを確認しうる。

中には, 아랫-입술 (93.9%), 논-이야기 (84.8%), 짓-이기다 (81.8%), 남-이야기 (75.8%), 잔-앞사귀 (72.7%), 맨-이름 (69.7%), 숨-이불 (69.7%), 꽃-이슬 (60.6%), 꿈-이야기 (57.6%), 알-이마 (51.5%), 윗-입술 (51.5%) のように〈n 挿入〉が起きやすいものもあるが、全体として見ると、〈n 挿入〉平均実現率は 22.3% と、非常に低い。換言するならば、当該の環境は、〈n 挿入〉規則が適用されにくい環境ということである。

こうした環境であるにもかかわらず、〈n 挿入〉実現率が顕著に高い

語については、語彙化という方向性で解釈するのがよいと思われる。例えば、[아랜닙술], [진니기다], [숨니블]といった発音は、共時的な〈n 挿入〉規則によって作り出されたのではなく、[아랜닙술], [진니기다], [숨니블]という音形全体が話者の脳に記憶されているのである。

ここで問題となるのは、どのような語が語彙化した発音が現れやすいかである。これにはなじみ度がある程度関与しているように思われる。抑々当該の語そのものをインフォーマントが知らなければ、語彙化した形の発音が出てくることは原理的にありえないからである。例えば、意味は似通っているが、なじみ度が異なると考えられる숨-이블 (69.7%), 핫-이블 (39.4%), 차림-이블 (15.2%) を比べると、この順で〈n 挿入〉実現率が下がっていくが、同じくこの順でなじみ度も下がっていく。

一方、かかる環境においても、〈n 挿入〉規則は適用されにくいというだけであって、インフォーマントによっては適用されることもある。したがって、同じように /n/ が挿入されているように見えても、語彙化によるものと、挿入規則によるものの双方が渾然一体となっているのは 2.1.2. の場合と同様である。先行要素の末音などとの相関性も特に見出されない。

논-이야기 (84.8%), 남-이야기 (75.8%), 꿈-이야기 (57.6%) については、後行要素が이야기という共通点がある。これらが〈n 挿入〉が起きやすいのは、先行要素の末音が共鳴音ということもあるだろうが、이야기という語の発音も大きく影響しているかもしれない。이야기는丁寧に発音すれば [i.jagi] となるが、[i] と [j] が隣接しているために、実際には語頭の이が無声化して [jagi] という音に近く発音されることが間々ある。そうした際には事実上、이야기는 /y/ で始まると言ってもよく、後行要素の頭音が /y/ の語と同じような振る舞いをするのも納得がいく。また、〈n 挿入〉を引き起こしやすい同義語의애기의影響も考えられる。後行要素が同じ이야기でも、옛날-이야기 (48.5%), 바늘-이야기 (39.4%), 밥-이야기 (30.3%) では〈n 挿入〉実現率がやや下がるが、それでも、「後行要素の頭音が /i/ でかつ後行要素の長さが 2 音節以上の固有語合成語」の中では相対的に〈n 挿入〉実現率が高く、이야기는語彙的

に〈n挿入〉を起こしやすい要素と考えることもできよう。

잔-읏사귀(72.7%)については、後行要素に읏という形態素が含まれることが関わっているのだろう。

後行要素が있⁽³⁷⁾다の場合には徹底して〈n挿入〉が起きず、先行研究では「例外的存在」として扱われてきた。있⁽³⁷⁾다は/i/で始まる2音節以上の固有語なので〈n挿入〉が起きないのは得心がいくが、一方で없⁽³⁷⁾다の影響もあるかもしれない。例えば、없-있⁽³⁷⁾다を[감닐따]と発音すると、対義語である없-있⁽³⁷⁾다[가법따]との、いわば発音上の非対称性が生じてしまう。このことを防遏するために、〈n挿入〉を一貫して拒んでいるとも考えられる。

いずれにせよ、全体的な顕著な傾向として、後行要素の頭音が/i/でかつ後行要素の長さが2音節以上の固有語合成語では、〈n挿入〉が起きにくいと言える。

2.2. 固有語畳語

固有語畳語については、全12語を調査した。

固有語畳語において、〈n挿入〉の実現如何に最も大きく関わっていると考えるのは、「後行要素の頭音」である。

後行要素の頭音が/y/の場合の〈n挿入〉平均実現率は72.0%、後行要素の頭音が/i/の場合の〈n挿入〉平均実現率は6.1%である。後行要素の頭音が/y/の場合と/i/の場合とでは、65.9%もの懸隔があり、後行要素の頭音が固有語畳語における〈n挿入〉実現如何に極めて大きな影響を与えていると言いうる：

- ①後行要素の頭音が/y/の場合 → 〈n挿入〉が起きやすい
- ②後行要素の頭音が/i/の場合 → 〈n挿入〉が起きにくい

以下、①②双方の具体語例を挙げつつ、確認および検討をしていこう。

現代朝鮮語における〈n 挿入〉の実現実態について(1) (辻野裕紀) (19)

①後行要素の頭音が /y/ の固有語量語 (全 8 語) : 〈n 挿入〉 平均実現率 72.0%

語	日本語訳	n	終	休
야금-야금 (△)	もぐもぐ, ちびちび	100.0%	0.0%	0.0%
야들-야들 (△)	つやつや	100.0%	0.0%	0.0%
옆-옆이 (○)	あちこちに	100.0%	0.0%	0.0%
유들-유들 (△)	しゃあしゃあと	100.0%	0.0%	0.0%
용-용 (○)	やーい	87.9%	12.1%	
알팍-알팍 (△)	べらべら	57.6%	3.0%	39.4%
야기죽-야기죽 (△)	べちゃくちゃ	27.3%	6.1%	66.7%
올랑-올랑 (△)	びょんびょん	3.0%	97.0%	

②後行要素の頭音が /i/ の固有語量語 (全 4 語) : 〈n 挿入〉 平均実現率 6.1%

語	日本語訳	n	終	休
이글-이글 (△)	かっか	18.2%	78.8%	3.0%
이기죽-이기죽 (×)	ねちねち	3.0%	9.1%	87.9%
이죽-이죽 (△)	ねちねち	3.0%	87.9%	9.1%
일기죽-일기죽 (△)	くねくね	0.0%	27.3%	72.7%

また、「先行要素の末音」や「語の長さ」も、〈n 挿入〉 実現如何に影響を与えている。

後行要素の頭音が /y/ であっても、先行要素の末音の種類によって 〈n 挿入〉 平均実現率が異なる。すなわち、先行要素の末音が共鳴音 (η /⁽³⁸⁾) を除く) の場合は、〈n 挿入〉 が 100.0% 起きるのに対し、閉鎖音の場合の 〈n 挿入〉 平均実現率は 61.6% である。また、先行要素の末音が /ŋ/ の 올랑-올랑の 〈n 挿入〉 実現率は 3.0% であり、非常に低い。これは、固有語合成語の分析でも述べたように、先行要素の末音が /ŋ/ の場合の 〈n 挿入〉 は機能的に剩余的だからであろう。

後行要素の頭音が /i/ の場合の 〈n 挿入〉 平均実現率は総じて低いが、先行要素の末音が共鳴音の 이글-이글의 〈n 挿入〉 実現率は 18.2% であるのに対し、先行要素の末音が閉鎖音の語の ⁽⁴⁰⁾ 〈n 挿入〉 平均実現率は 2.0% であり、明白な差が認められる。

また、語の長さが短ければ短いほど〈n挿入〉が起きやすく、長ければ長いほど〈n挿入〉が起きにくいという傾向も観察される。〈3音節+3音節〉のものについては、⁽⁴¹⁾休止を志向するようである。

例えば, ⁽⁴²⁾앞-앞이, 용-용は、先行要素の末音は各々閉鎖音と /ŋ/ だが、〈n挿入〉実現率は各々100.0%, 87.9%であり、〈n挿入〉が非常に起きやすい。

また、先行要素の末音は同じであっても、알팍-알팍と야기죽-야기죽を比べると、前者の〈n挿入〉実現率は57.6%なのに対し、後者のそれは27.3%であり、30.3%もの逕庭が認められる。야기죽-야기죽については、66.7%のインフォーマントが야기죽と야기죽の間にポーズを置いて発音し、〈n挿入〉でも終声の初声化でもなく、休止を志向する。

先行要素の末音も後行要素の頭音も意味もほぼ同じで、長さのみが異なる이죽-이죽と이기죽-이기죽を比べると、〈n挿入〉実現率は共に3.0%で同じだが、前者は終声の初声化を志向するのに対し、後者は休止を志向するという点で大きく異なる。前者の終声の初声化実現率は87.9%、後者のそれは9.1%、前者の休止実現率は9.1%、後者のそれは87.9%であり、対蹠的な結果になっている。일기죽-일기죽でも休止実現率が72.7%であり、休止が置かれやすい。

2.3. 固有語単語+(으)요

〈固有語単語+(으)요〉という形についても調査を行なった。ここでの(으)요とは、「丁寧さ」を表す補助詞である。本調査では、特に(으)요が文末に現れ, 밥요?~밥이요?《ごはんですか?》のごとく、聞き返しの用法を果たす場合、{요}の2つの異形態 /요/, /이요/ のどちらが現れるか、またその際、〈n挿入〉が生じるか否かについて調べた。調査対象としたものは全8語である。具体語例とその〈n挿入〉実現率等は次の通りである：

	/요/		/이요/	
	n	終	n	終
⁽⁴³⁾ 정말 《本当》	97.0%	0.0%	0.0%	3.0%
눈 《雪》	6.1%	0.0%	0.0%	93.9%
강 《川》	3.0%	0.0%	0.0%	97.0%
물 《水》	3.0%	0.0%	0.0%	97.0%
밥 《ごはん》	3.0%	6.1%	0.0%	90.9%
밤 《栗》	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
밭 《畑》	0.0%	0.0%	0.0%	⁽⁴⁴⁾ 100.0%
죽 《お粥》	0.0%	3.0%	0.0%	97.0%

上の表から分かる通り、20代のソウル方言話者では、結合する語が子音で終わっている場合、その子音の種類を問わず、基本的に /요/ ではなく、/이요/ が現れるようである。そして、その際、〈n 挿入〉は一切起きない。/요/ が現れたインフォーマントもごく一部いるが、その際、結合する語の末音が共鳴音の場合には必ず〈n 挿入〉が起き、閉鎖音の場合には、揺れが見られたり、あるいは終声の初声化のみが起きて⁽⁴⁶⁾いる。

例外は、정말である。정말の場合は、子音で終わっているにもかかわらず、/요/ が現れるインフォーマントがほとんどで、〈n 挿入〉も必ず起きる。정말はここで扱った他の語と異なり、完き体言というよりは、間投詞的であり、[정말료] という形全体が語彙化しているものと思われる。

3. 漢 字 語

調査した漢字語は全442語である。うち、合成語⁽⁴⁷⁾345語、人名(姓+名)33語、〈姓+肩書等〉24語、〈姓名+肩書等〉16語、〈姓名+역(訳)〉6語、〈本貫+姓〉4語、漢数詞14語である。

3.1. 漢字語合成語

漢字語合成語については、全345語を調査した。

漢字語合成語において、〈n挿入〉の実現如何に最も大きく関わっていると考えるのは、「後行要素の頭音」である。後行要素が /y/ で始まる漢字語合成語では〈n挿入〉が起きやすく、一方、後行要素が /i/ で始まる漢字語合成語では〈n挿入〉は基本的に起きない。固有語合成語と異なり、後行要素の長さは問わない。

固有語合成語でも、後行要素の頭音が /i/ の場合（とりわけ後行要素の長さが2音節以上の語）には〈n挿入〉が起きにくいという傾向が見られたが、漢字語の場合は、その傾向がさらに顕著である：

①後行要素の頭音が /y/ の場合→〈n挿入〉が起きやすい

②後行要素の頭音が /i/ の場合→〈n挿入〉が基本的に起きない

以下、①②各々について、具体語例を挙げつつ、確認および検討をしていこう。

3.1.1. 後行要素の頭音が /y/ の漢字語合成語

後行要素の頭音が /y/ の漢字語合成語の具体語例とその〈n挿入〉実現率等は次の通りである：

①後行要素の頭音が /y/ の漢字語合成語（全276語）：〈n挿入〉平均実現率65.6%

語	日本語訳	n	終	休
결산-연도 (×)	決算年度	100.0%	0.0%	0.0%
구절-양장 (○)	九十九折	100.0%	0.0%	0.0%
기본-요금 (○)	基本料金	100.0%	0.0%	0.0%
길음-역 (?)	吉音駅	100.0%	0.0%	0.0%
남원-여중 (?)	南原女子中	100.0%	0.0%	0.0%
당산-역 (?)	堂山駅	100.0%	0.0%	0.0%
대방-역 (?)	大方駅	100.0%	0.0%	

現代朝鮮語における〈n 挿入〉の実現実態について(1) (辻野裕紀) (23)

만년필-용 (?)	万年筆用	100.0%	0.0%	0.0%
무전-여행 (○)	無錢旅行	100.0%	0.0%	0.0%
문산-역 (?)	汶山駅	100.0%	0.0%	0.0%
발열-요법 (×)	発熱療法	100.0%	0.0%	0.0%
배급-용 (?)	配給用	100.0%	0.0%	0.0%
병인-양요 (○) ⁽⁴⁸⁾	丙寅洋擾	100.0%	0.0%	0.0%
생활-양식 (×)	生活様式	100.0%	0.0%	0.0%
생활-용수 (○)	生活用水	100.0%	0.0%	0.0%
생활-용품 (○)	生活用品	100.0%	0.0%	0.0%
생활-유지 (?)	生活維持	100.0%	0.0%	0.0%
설-유두 (○)	舌乳頭	100.0%	0.0%	0.0%
성신-여대 (?)	誠信女子大	100.0%	0.0%	0.0%
시간-예술 (×)	時間芸術	100.0%	0.0%	0.0%
식용-유 (○)	食用油	100.0%	0.0%	
신-여성 (○)	新女性	100.0%	0.0%	0.0%
신-예술 (○)	新芸術	100.0%	0.0%	0.0%
신풍-역 (?)	新豊駅	100.0%	0.0%	
신혼-여행 (○)	新婚旅行	100.0%	0.0%	0.0%
안국-역 (?)	安国駅	100.0%	0.0%	0.0%
애완-용 (○)	愛玩用	100.0%	0.0%	0.0%
야단-야단 (○)	勝手に騒ぎ立てること	100.0%	0.0%	0.0%
영업-용 (○)	營業用	100.0%	0.0%	0.0%
외국인-용 (?)	外国人用	100.0%	0.0%	0.0%
월곡-역 (?)	月谷駅	100.0%	0.0%	0.0%
유한-양행 (?)	柳韓洋行 (韓国の製薬会社)	100.0%	0.0%	0.0%
일반-열차 (?)	一般列車	100.0%	0.0%	0.0%
일본-연구 (?)	日本研究	100.0%	0.0%	0.0%
일본-영화 (?)	日本映画	100.0%	0.0%	0.0%
[일본-예술]협회 ⁽⁴⁹⁾ (?)	日本芸術協会	100.0%	0.0%	0.0%
정신-요법 (×)	精神療法	100.0%	0.0%	0.0%
제삼-요소 (?)	第三要素	100.0%	0.0%	0.0%

제일-요소 (?)	第一要素	100.0%	0.0%	0.0%
조선-여성 (?)	朝鮮女性	100.0%	0.0%	0.0%
주말-예배 (?)	週末禮拜	100.0%	0.0%	0.0%
지하철-역 (○)	地下鉄の駅	100.0%	0.0%	0.0%
천일-야화 (×)	千夜一夜物語	100.0%	0.0%	0.0%
최신-영화 (?)	最新映画	100.0%	0.0%	0.0%
특급-열차 (×)	特急列車	100.0%	0.0%	0.0%
피임-약 (○)	避妊藥	100.0%	0.0%	0.0%
학술-용어 (?)	學術用語	100.0%	0.0%	0.0%
한국-요리 (?)	韓國料理	100.0%	0.0%	0.0%
한국인-용 (?)	韓國人用	100.0%	0.0%	0.0%
합정-역 (?)	合井駅	100.0%	0.0%	
휘발-유 (○)	揮發油	100.0%	0.0%	0.0%
고산-유고 (○)	孤山遺稿	97.0%	0.0%	3.0%
골-연화증 (○)	骨軟化症	97.0%	3.0%	0.0%
구속-영장 (×)	拘束令狀	97.0%	3.0%	0.0%
국민-윤리 (?)	國民倫理	97.0%	0.0%	3.0%
남존-여비 (○)	男尊女卑	97.0%	3.0%	0.0%
내복-약 (○)	內服藥	97.0%	3.0%	0.0%
단-여의 (○)	チマの下に着るひ とえの下着	97.0%	3.0%	0.0%
동덕-여대 (?)	同德女子大	97.0%	3.0%	0.0%
동면-요법 (×)	冬眠療法	97.0%	3.0%	0.0%
두통-약 (○)	頭痛藥	97.0%	3.0%	
마찰-열 (○)	摩擦熱	97.0%	3.0%	0.0%
미국-영화 (?)	アメリカ映画	97.0%	3.0%	0.0%
민간-요법 (○)	民間療法	97.0%	3.0%	0.0%
백팔-염주 (×)	百八の數珠	97.0%	3.0%	0.0%
삼국-유사 (○)	三國遺事	97.0%	3.0%	0.0%
수학-여행 (○)	修學旅行	97.0%	3.0%	0.0%
신길-역 (?)	新吉駅	97.0%	3.0%	0.0%
신-역사학과 (○)	新歷史學派	97.0%	0.0%	3.0%
암-예방 (?)	癌予防	97.0%	0.0%	3.0%

現代朝鮮語における〈n 挿入〉の実現実態について(1) (辻野裕紀) (25)

약물-요법 (×)	薬物療法	97.0%	3.0%	0.0%
외용-약 (○)	外用薬	97.0%	3.0%	
우편-엽서 (○)	郵便葉書	97.0%	0.0%	3.0%
위장-약 (○)	胃腸薬	97.0%	3.0%	
음운-연구 (?)	音韻研究	97.0%	3.0%	0.0%
일본-역사 (?)	日本の歴史	97.0%	3.0%	0.0%
[일본-유학]협회 (?)	日本留学協会	97.0%	3.0%	0.0%
준-예산 (○)	暫定予算	97.0%	0.0%	3.0%
중국-연구 (?)	中国研究	97.0%	3.0%	0.0%
학생-용 (?)	学生用	97.0%	3.0%	
[한국-예술]협회 (?)	韓国芸術協会	97.0%	3.0%	0.0%
[한국-유학]협회 (?)	韓国留学協会	97.0%	3.0%	0.0%
건-연어 (?)	乾鮭	93.9%	6.1%	0.0%
계림-유사 (○)	鷄林類事	93.9%	0.0%	6.1%
기록-영화 (×)	記録映画	93.9%	3.0%	3.0%
남원-여자중학교 (?)	南原女子中学	93.9%	0.0%	6.1%
모집-요강 (?)	募集要項	93.9%	3.0%	3.0%
물심-양면 (○)	物心両面	93.9%	3.0%	3.0%
미국-여권 (?)	アメリカ旅券	93.9%	6.1%	0.0%
미국-연구 (?)	アメリカ研究	93.9%	6.1%	0.0%
반-유동체 (○)	半流動体	93.9%	0.0%	6.1%
방일-연수단 (?)	訪日研修団	93.9%	0.0%	6.1%
불-유쾌하다 (×)	不愉快だ	93.9%	3.0%	3.0%
B급-영화 (?)	B級映画	93.9%	6.1%	0.0%
어학-연수 (○)	語学研修	93.9%	6.1%	0.0%
조각-예술 (?)	彫刻芸術	93.9%	3.0%	3.0%
주엽-역 (?)	注葉駅	93.9%	6.1%	0.0%
학술-연구 (?)	学術研究	93.9%	6.1%	0.0%
결합-유형 (?)	結合類型	90.9%	6.1%	3.0%
급행-열차 (○)	急行列車	90.9%	9.1%	
나팔관-염 (○)	喇叭管炎	90.9%	9.1%	0.0%
독점-욕 (○)	独占欲	90.9%	6.1%	3.0%
불-여의하다 (×)	不如意だ	90.9%	6.1%	3.0%

B급-연기 (?)	B級演技	90.9%	9.1%	0.0%
성신-여자대학교 (?)	誠信女子大學	90.9%	0.0%	9.1%
⁽⁵⁰⁾ 쌍-욕 (○)	下品な悪口	90.9%	9.1%	
어학-연구 (?)	語學研究	90.9%	9.1%	0.0%
지식-욕 (○)	知識欲	90.9%	9.1%	0.0%
한방-약 (○)	漢方藥	90.9%	9.1%	
화학-요법 (×)	化學療法	90.9%	6.1%	3.0%
공업-용수 (○)	工業用水	87.9%	6.1%	6.1%
무역-영어 (?)	貿易英語	87.9%	3.0%	9.1%
문법-연구 (?)	文法研究	87.9%	12.1%	0.0%
분석-요원 (?)	分析要員	87.9%	12.1%	0.0%
삼년-유여 (?)	三年余り	87.9%	6.1%	6.1%
색-연필 (○)	色鉛筆	87.9%	12.1%	0.0%
신-열대구 (○)	新熱帶區	87.9%	9.1%	3.0%
암-유전자 (○)	癌遺伝子	87.9%	0.0%	12.1%
압축-열 (○)	壓縮熱	87.9%	12.1%	0.0%
유족-연금 (×)	遺族年金	87.9%	6.1%	6.1%
정-열 (○)	情熱	87.9%	12.1%	
직장-여성 (?)	職場女性	87.9%	12.1%	
직행-열차 (○)	直行列車	87.9%	12.1%	
공연-예술 (?)	公演藝術	84.8%	0.0%	15.2%
교환-양 (○)	交換嬢	84.8%	15.2%	0.0%
반신-욕 (○)	半身浴	84.8%	15.2%	0.0%
본-연구 (?)	本研究	84.8%	9.1%	6.1%
영업-연도 (×)	營業年度	84.8%	3.0%	12.1%
전-야당 (?)	全野黨	84.8%	0.0%	15.2%
즉석-요리 (○)	即席料理	84.8%	15.2%	0.0%
지역-연구 (×)	地域研究	84.8%	15.2%	0.0%
동덕-여자대학교 (×)	同德女子大學	81.8%	3.0%	15.2%
반-영구적 ⁽⁵¹⁾ (○)	半永久的	81.8%	18.2%	0.0%
불-여귀 (×)	ホトトギス	81.8%	18.2%	0.0%
오색-야채 카레 (?)	五色野菜カレー	81.8%	9.1%	9.1%

現代朝鮮語における〈n 挿入〉の実現実態について(1) (辻野裕紀) (27)

전복-양식 (?)	鮑の養殖	81.8%	12.1%	6.1%
족탕-욕 (?)	足湯	81.8%	18.2%	
천일-염 (○)	天日塩	81.8%	18.2%	0.0%
한국-연구 (?)	韓国研究	81.8%	18.2%	0.0%
향학-열 (○)	向学熱	81.8%	15.2%	3.0%
공식-예약 (?)	公式予約	78.8%	12.1%	9.1%
구역-예배 (×)	区域礼拝	78.8%	15.2%	6.1%
궁중-요리 (?)	宮中料理	78.8%	21.2%	
동대문-역사문화공원역(?)	東大門歴史文化公園駅	78.8%	6.1%	15.2%
선행-요소 (?)	先行要素	78.8%	21.2%	
세탁-용구 (?)	洗濯用具	78.8%	21.2%	0.0%
세탁-용수 (○)	洗濯用水	78.8%	21.2%	0.0%
암반-욕 (?)	岩盤浴	78.8%	21.2%	0.0%
후행-요소 (?)	後行要素	78.8%	21.2%	
관람-요금 (?)	観覧料金	75.8%	0.0%	24.2%
기업-연합 (×)	企業連合	75.8%	9.1%	15.2%
백분-율 (○)	百分率	75.8%	24.2%	0.0%
산욕-열 (○)	産褥熱	75.8%	21.2%	3.0%
핵-융합 (○)	核融合	75.8%	9.1%	15.2%
동국-여지승람 (○)	東国輿地勝覽	72.7%	18.2%	9.1%
문학-예술 (○)	文学芸術	72.7%	9.1%	18.2%
삼-염화비소 (○)	三塩化砒素	72.7%	15.2%	12.1%
시일-야방성대곡 (×)	是日也放声大哭	72.7%	27.3%	0.0%
연락-용 (?)	連絡用	72.7%	27.3%	0.0%
염-염혀 ⁽⁵²⁾ (×)	炎々と	72.7%	27.3%	0.0%
고산-윤선도 (?)	孤山尹善道	69.7%	0.0%	30.3%
맹장-염 (○)	盲腸炎	69.7%	30.3%	
사업-열 (○)	事業熱	69.7%	30.3%	0.0%
전-역장 (?)	前駅長	69.7%	18.2%	12.1%
삼-연음부 (○)	三連音符	66.7%	15.2%	18.2%
색-유리 (○)	色ガラス	66.7%	30.3%	3.0%
빈-영양호 (×)	貧栄養湖	66.7%	3.0%	30.3%
영업-양도 (×)	営業譲渡	66.7%	12.1%	21.2%

중국인-유학생 (?)	中国人留學生	66.7%	0.0%	33.3%
노인전문-요양원 (?)	老人專門療養院	63.6%	0.0%	36.4%
현-역장 (?)	現駅長	63.6%	24.2%	12.1%
각-예문 (?)	各例文	60.6%	9.1%	30.3%
광음-여류 (○)	光陰矢の如し	60.6%	3.0%	36.4%
만력-요 (×)	万曆窯	60.6%	33.3%	6.1%
액-유동성 (○)	液流動性	60.6%	21.2%	18.2%
예행-연습 (○)	予行演習	54.5%	45.5%	
일목-요연 (×)	一目瞭然	54.5%	45.5%	0.0%
일-양일 (○)	一日か二日	54.5%	45.5%	0.0%
각-요소 (?)	各要素	51.5%	21.2%	27.3%
경제학-용어 (?)	經濟學用語	51.5%	6.1%	42.4%
무명-용사 (○)	無名勇士	51.5%	48.5%	
암-열선 (○)	赤外線	51.5%	45.5%	3.0%
고막-염 (○)	鼓膜炎	45.5%	54.5%	0.0%
구상-유취 (○)	靑二才	45.5%	54.5%	
신-용산역 (?)	新龍山駅	45.5%	48.5%	6.1%
계성-여고 (?)	啓星女子高	42.4%	57.6%	
극-영화 (○)	劇映画	42.4%	57.6%	0.0%
신-영상 (?)	新映像	42.4%	54.5%	3.0%
어동-육서 (○)	魚東肉西	42.4%	57.6%	
장-열 (×)	高熱	42.4%	57.6%	
할리우드급-연기 ⁽⁵³⁾ (?)	ハリウッド級演技	42.4%	3.0%	54.5%
동-역원 (?)	同役員	39.4%	60.6%	
목-양말 (○)	木綿の靴下	39.4%	60.6%	0.0%
영양-엽 (×)	榮養葉	39.4%	60.6%	
일본어학-연구 (?)	日本語學研究	39.4%	0.0%	60.6%
정-육점 (×)	精肉店	39.4%	60.6%	
회갑-연 (×)	還曆の祝宴	39.4%	60.6%	0.0%
대동-여지도 (○)	大東輿地圖	36.4%	63.6%	
미풍-양속 (○)	美風良俗	36.4%	63.6%	
영양-요법 (×)	榮養療法	36.4%	63.6%	
유방-염 (○)	乳房炎	36.4%	63.6%	

現代朝鮮語における〈n 挿入〉の実現実態について(1) (辻野裕紀) (29)

행동-예정 (?)	行動予定	36.4%	63.6%	
극-열 ⁽⁵⁴⁾ (×)	極熱	33.3%	66.7%	0.0%
여형-약제 (×)	兄弟のように親しいこと	33.3%	66.7%	
유선-염 (○)	乳腺炎	33.3%	66.7%	0.0%
일본-[예술협회] (?)	日本芸術協会	33.3%	0.0%	66.7%
총-예산 (○)	総予算	33.3%	66.7%	
투명-유리 (?)	透明ガラス	33.3%	66.7%	
공동-연구 (?)	共同研究	30.3%	69.7%	
동경-여대 (?)	東京女子大	30.3%	69.7%	
숙명-여대 (?)	淑明女子大	30.3%	69.7%	
역-여시 (×)	やはり	30.3%	69.7%	0.0%
일본-[유학협회] (?)	日本留学協会	30.3%	0.0%	69.7%
한국-[예술협회] (?)	韓国芸術協会	30.3%	3.0%	66.7%
격몽-요결 (○)	擊蒙要訣	27.3%	72.7%	
불-연속적 (×)	不連続的	27.3%	72.7%	0.0%
안-연고 (×)	眼軟膏	27.3%	72.7%	0.0%
약-염기 (○)	弱塩基	27.3%	72.7%	0.0%
조형-예술 (×)	造形芸術	27.3%	72.7%	
치평-요람 (○)	治平要覽	27.3%	72.7%	
한국-[유학협회] (?)	韓国留学協会	27.3%	0.0%	72.7%
황산-염 (○)	硫酸塩	27.3%	72.7%	0.0%
공공-요금 (○)	公共料金	24.2%	75.8%	
급-열 ⁽⁵⁵⁾ (×)	急に熱すること	24.2%	75.8%	0.0%
동성-연애자 (○)	同性戀愛者	24.2%	75.8%	
명동-예술극장 (?)	明洞芸術劇場	24.2%	75.8%	
백-연와 (○)	耐火煉瓦	24.2%	72.7%	3.0%
부정-요구 (?)	不正要求	24.2%	75.8%	
송별-연 (×)	送別の宴	24.2%	75.8%	0.0%
정-염 ⁽⁵⁶⁾ (×)	情炎	24.2%	75.8%	
총-역량 (○)	総力量	24.2%	75.8%	
불-요불굴 (×)	不撓不屈	21.2%	78.8%	0.0%

생-육신 (×)	生六臣	21.2%	78.8%	
장-염 (○)	腸炎	21.2%	78.8%	
한강-유람선 (?)	漢江遊覽船	21.2%	78.8%	
각-양식 (?)	各樣式	18.2%	36.4%	45.5%
검-열 (△)	檢閱	18.2%	81.8%	0.0%
계성-여자고등학교 (?)	啓星女子高等學校	18.2%	81.8%	
신-연수역 (?)	新延壽驛	18.2%	75.8%	6.1%
장-유지 (×)	荏胡麻の油を染み込ませた厚い紙	18.2%	81.8%	
전동-요람 (?)	電動揺りかご	18.2%	81.8%	
심장병-예방 (?)	心臟病予防	15.2%	84.8%	
골-연증 (×)	骨軟症	12.1%	87.9%	0.0%
동방-예의지국 (○) ⁽⁵⁷⁾	東方禮儀之國	12.1%	87.9%	
숙명-여자대학교 (?)	淑明女子大學校	12.1%	87.9%	
간-염 (×)	肝炎	9.1%	90.9%	0.0%
동경-여자대학교 (?)	東京女子大學	9.1%	90.9%	
수영-야유 (×)	水宮野遊	9.1%	90.9%	
연-연하다 (×)	恣々としている	9.1%	90.9%	0.0%
총-연맹 (?)	總連盟	9.1%	90.9%	
총-연습 (○)	總練習	9.1%	90.9%	
늑막-염 (○)	肋膜炎	6.1%	93.9%	0.0%
반-야탕 (×)	酒	6.1%	93.9%	0.0%
신-연증 (×)	小兒の病氣の一種	6.1%	93.9%	0.0%
강-염기 (○)	強塩基	3.0%	97.0%	
공-염불 (○)	空念仏	3.0%	97.0%	
백-여 년간 (?)	百餘年間	3.0%	97.0%	0.0%
백-열 (×) ⁽⁵⁸⁾	白熱	3.0%	97.0%	0.0%
선-열 (×)	先烈	3.0%	97.0%	0.0%
십-여 년간 (?)	十餘年間	3.0%	97.0%	0.0%
장-염전증 (○)	腸捻轉症	3.0%	97.0%	
장-영창 (×)	長い引き障子	3.0%	97.0%	
천-여 년간 (?)	千餘年間	3.0%	97.0%	0.0%

탈지분유 (×)	脱脂粉乳	3.0%	97.0%	0.0%
한-영중 (?)	韓英中	3.0%	97.0%	0.0%
경-양식 (×)	軽い洋食	0.0%	100.0%	
국-영수 (?)	英数国	0.0%	100.0%	0.0%
금-용 (△)	金融	0.0%	100.0%	0.0%
남-양주 (×)	南楊州	0.0%	100.0%	0.0%
동-영상 (○)	動面	0.0%	100.0%	
등-용문 (×)	登竜門	0.0%	100.0%	
등-유 (×)	灯油	0.0%	100.0%	
성-염색체 (○)	性染色体	0.0%	100.0%	
약-용 (×)	薬用	0.0%	100.0%	0.0%
총-영사 (○)	総領事	0.0%	100.0%	
한-약 (×)	漢方薬	0.0%	100.0%	0.0%

上の表から分かる通り、後行要素の頭音が /y/ の漢字語合成語では、〈n 挿入〉が起きやすいものが多い。

しかし、中には、〈n 挿入〉が起きにくいものや全く起きないものも散見される。こうした語について考えてみよう。

まず、〈n 挿入〉実現率が50%未満の、〈n 挿入〉が起きにくい語に着目すると、その大半は、先行要素の末音が閉鎖音 /g/ か /ŋ/ であるという著しい特徴があり、先行要素の末音が影響を及ぼしていることが分かる。〈n 挿入〉実現率が50%未満の語のうち、先行要素の末音が /g, ŋ/ のものは70.2%を占める。尤も、한국-요리, 대방-역などのように、先行要素の末音が /g/ や /ŋ/ であっても〈n 挿入〉が起きやすいものもあり、語によってその起きやすさは異なるが、〈n 挿入〉が起きにくいものの多くは先行要素の末音が閉鎖音 /g/ か /ŋ/ であるという点は特筆すべきである。

また、〈n 挿入〉が起きにくい語には、〈1音節漢字語形態素 + 1音節漢字語形態素〉という構造のものが多く含まれる。例えば次のような語である：검-열 (18.2%), 골-연증 (12.1%), 연-연하다 (9.1%), 반-야탕 (6.1%), 신-연증 (6.1%), 선-열 (3.0%), 탈지분유 (3.0%), 한-영

중 (3.0%), 국-영수 (0.0%) (以上語根複合語)⁽⁵⁹⁾。극-열 (33.3%), 급-열 (24.2%), 간-염 (9.1%), 금-용 (0.0%), 등-유 (0.0%), 약-용 (0.0%), 한-약 (0.0%) (以上語幹・語根複合語)。불-요불굴 (21.2%) (以上接頭派生語)。백-여 년간 (3.0%), 십-여 년간 (3.0%), 천-여 년간 (3.0%) (以上接尾派生語)。백-열 (3.0%) (以上語幹複合語)。中には, 쌍-육 (90.9%), 정-열 (87.9%) のように 〈n 挿入〉が起きやすい語も僅かにあるが, 全体的な傾向としては, 語構造を問わず, 〈1 音節漢字語形態素 + 1 音節漢字語形態素〉では 〈n 挿入〉が起きにくい。

신-용산역 (45.5%), 신-영상 (42.4%), 불-연속적 (27.3%), 안-연고 (27.3%), 신-연수역 (18.2%), 남-양주 (0.0%) の 〈n 挿入〉実現率が低いのは, 〈1 音節漢字語形態素 + 重音節で始まる 2 音節漢字語〉という語構造と相関づけうる。これらの語に共通しているのは, すべてこの 〈1 音節漢字語形態素 + 重音節で始まる 2 音節漢字語〉という構造であるという点である⁽⁶⁰⁾。この際, 最初の 1 音節が語基か接辞かは問わない。この構造が 〈n 挿入〉実現如何に関与していることは, 〈1 音節漢字語形態素 + 軽音節で始まる 2 音節漢字語〉である 신-여성 (100.0%), 신-예술 (100.0%), 단-여의 (97.0%), 건-연어 (93.9%), 불-유쾌하다 (93.9%), 불-여의하다 (90.9%) などと比べてみるとより鮮明になる。これらの 〈n 挿入〉実現率は極めて高い。この傾向は, あとで論じる漢字語人名(姓+名)でも一貫して観察される。これは, 後行要素が重音節で始まる場合には, 後行要素の第 1 音節の終声の後行要素の認識に役立っているために /n/ の必要性が相対的に低いのに対し, 後行要素が軽音節で始まる場合にはそうした機能を果たすものがないために /n/ がより挿入されやすくなっているものと思料される。

회갑-연 (39.4%) や 송별-연 (24.2%) の 〈n 挿入〉実現率が低くなっているのはやや存外の結果であるが, 後行要素が共に 연《宴》であり, 後行要素が 연《宴》の場合は 〈n 挿入〉が起きにくいと言えそうである。同じ漢字語語根である 용《用》や 욕《欲》が後行要素の場合と比べると, その違いは歴然としており, 연《宴》は語彙的に 〈n 挿入〉を起こしにくい要素だと言える。こうした例を見ると, 分節音や音節構造とは関係

現代朝鮮語における〈n 挿入〉の実現実態について(1) (辻野裕紀) (33)

なく、語彙的に〈n 挿入〉を起こしやすい要素、起こしにくい要素というものがあるように思われる。(他にも例えば、先に固有語合成語で見ないように, 이야기は〈n 挿入〉を起こしやすい。)

할리우드급-연기 (42.4%) も〈n 挿入〉実現率が50%を下回っているが、この語に特徴的なのは、休止実現率が54.5%と顕著に高いことである。先行要素が他の語に比べて長く、形態素境界を明瞭に意識して発音した結果であろう。일본어학-연구 (39.4%) も同様である。固有語疊語でも見られたように、語の長さが長いと休止を志向しやすくなるようである。

また、枝分かれ構造も〈n 挿入〉実現如何に関与する。左枝分かれ構造の [일본-예술]협회 (100.0%), [일본-유학]협회 (97.0%), [한국-예술]협회 (97.0%), [한국-유학]협회 (97.0%) に比べて、右枝分かれ構造の 일본-[예술협회] (33.3%), 일본-[유학협회] (30.3%), 한국-[예술협회] (30.3%), 한국-[유학협회] (27.3%) の〈n 挿入〉実現率は低く、その分休止実現率が高く現れた。これは、日本語の複合語アクセントや連濁で見られる現象とよく似ている。⁽⁶¹⁾

유선-염 (33.3%), 황산-염 (27.3%) の〈n 挿入〉実現率も低いが、この理由は定かではない。ここでは語彙化した発音と考えておくほかなさそうである。

3.1.2. 後行要素の頭音が /i/ の漢字語合成語

後行要素の頭音が /i/ の漢字語合成語の具体語例とその〈n 挿入〉実現率等は次の通りである：

②後行要素の頭音が /i/ の漢字語合成語 (全69語) : 〈n 挿入〉平均実現率1.7%

語	日本語訳	n	終	休
몰-이해 (○)	没理解	24.2%	75.8%	0.0%
불-이익 (○)	不利益	12.1%	87.9%	0.0%
생-이별 (○)	生き別れ	12.1%	87.9%	
전-이사 (?)	前理事	12.1%	75.8%	12.1%

폐물-이용 (?)	廢物利用	12.1%	84.8%	3.0%
현-이사 (?)	現理事	12.1%	69.7%	18.2%
만-이양 (x)	時期を遅れての田植え	6.1%	93.9%	0.0%
각-이론 (?)	各理論	3.0%	84.8%	12.1%
선-이자 (o)	天引き	3.0%	97.0%	0.0%
순-이론 (o)	純理論	3.0%	97.0%	0.0%
순-이자 (o)	純利子	3.0%	97.0%	0.0%
신-이론 (?)	新理論	3.0%	97.0%	0.0%
연월-일시 (x)	年月日時	3.0%	93.9%	3.0%
영-이별 (o)	永の別れ	3.0%	97.0%	
예술-인 (x)	芸術人	3.0%	97.0%	0.0%
조율-이시 ⁽⁶²⁾ (x)	棗栗梨柿	3.0%	97.0%	0.0%
가격-인하 (?)	価格引き下げ	0.0%	100.0%	0.0%
각-일간지 (?)	各日刊紙	0.0%	84.8%	15.2%
각-임원 (?)	各役員	0.0%	78.8%	21.2%
감연-이설 (o)	口車	0.0%	100.0%	0.0%
괴담-이설 (o)	奇怪で不思議な話	0.0%	100.0%	0.0%
국경-일 (x)	国民の祝日	0.0%	100.0%	
근본-이념 (o)	根本理念	0.0%	100.0%	0.0%
금-일봉 (x)	金一封	0.0%	100.0%	0.0%
기본-이론 (?)	基本理論	0.0%	100.0%	0.0%
기업-이윤 (?)	企業利潤	0.0%	100.0%	0.0%
긴급-입원 (?)	緊急入院	0.0%	100.0%	0.0%
남-인도 (?)	南インド	0.0%	100.0%	0.0%
동-임원 (?)	同役員	0.0%	100.0%	
모집-인원 (?)	募集人員	0.0%	100.0%	0.0%
문학-이론 (?)	文學理論	0.0%	100.0%	0.0%
미술-인쇄 (x)	美術印刷	0.0%	100.0%	0.0%
법-이념 (x)	法理念	0.0%	100.0%	0.0%
법-인격 (x)	法人格	0.0%	100.0%	0.0%
본인-인증 (?)	本人認証	0.0%	100.0%	0.0%
북-인도 (?)	北インド	0.0%	100.0%	0.0%
빈-익빈 (x)	貧しい者がますます貧しくなること	0.0%	100.0%	0.0%

現代朝鮮語における〈n 挿入〉の実現実態について(1) (辻野裕紀) (35)

3-일 (×)	3 日	0.0%	100.0%	0.0%
상공-인 (×)	商工人	0.0%	100.0%	
상대성-이론 (×)	相對性理論	0.0%	100.0%	
상업-인구 (?)	商業人口	0.0%	100.0%	0.0%
색-입체 (×)	色立体	0.0%	100.0%	0.0%
세상-인심 (×)	世間の人情	0.0%	100.0%	
수준-이상 (?)	水準以上	0.0%	100.0%	0.0%
순-이익 (○)	純利益	0.0%	100.0%	0.0%
시험-일시 (?)	試験日時	0.0%	100.0%	0.0%
신-이문역 (?)	新里門駅	0.0%	100.0%	0.0%
신-이상주의 (×)	新理想主義	0.0%	100.0%	0.0%
신-인상주의 (×)	新印象主義	0.0%	87.9%	12.1%
심판-이혼 (×)	審判離婚	0.0%	100.0%	0.0%
6-일 (?)	6 日	0.0%	100.0%	0.0%
익-일 (×)	翌日	0.0%	100.0%	0.0%
인간-이별	死ぬこと	0.0%	100.0%	0.0%
일본-인 (×)	日本人	0.0%	100.0%	0.0%
일본-인형 (?)	日本人形	0.0%	100.0%	0.0%
1-일 (×)	1 日	0.0%	100.0%	0.0%
전-인류 (?)	全人類	0.0%	90.9%	9.1%
전-인민 (?)	全人民	0.0%	87.9%	12.1%
조정-이혼 (×)	調停離婚	0.0%	100.0%	
중심-인물 (×)	中心人物	0.0%	100.0%	0.0%
최적성-이론 (?)	最適性理論	0.0%	100.0%	
7-일 (?)	7 日	0.0%	100.0%	0.0%
평판-인쇄 (×)	平版印刷	0.0%	100.0%	0.0%
한국-인 (×)	韓國人	0.0%	100.0%	0.0%
한국-인형 (?)	韓國人形	0.0%	100.0%	0.0%
한국-[인형협회](?)	韓國人形協會	0.0%	27.3%	72.7%
[한국-인형]협회(?)	韓國人形協會	0.0%	100.0%	0.0%
한국-일본어학회(?)	韓國日本語学会	0.0%	57.6%	42.4%
홍익-인간 (×)	弘益人間	0.0%	100.0%	0.0%

上の表から、後行要素の頭音が /i/ の漢字語合成語では、〈n 挿入〉が

ほとんど起きないことを確認しうる。

물-이해, 불-이익, 생-이별, 전-이사, 폐불-이용, 현-이사のようにごく一部の語では、〈n挿入〉を起こすインフォーマントも複数いたが、そうした話者は、漢字音の影響を受けている可能性がある (cf. 理, 利, 離)。만-이양, 연월-일시などについては漢字音の影響とは考えられないが、いずれも〈n挿入〉が生じるインフォーマントは僅か1, 2名に過ぎない。⁽⁶³⁾また、これらは각-이론を除き、すべて先行要素の末音が共鳴音であり、このことも聊か効いているものと思われる。

しかし、全体として見ると、後行要素の頭音が /i/ の漢字語では、〈n挿入〉は基本的に生じないと言いうる。

また、接頭派生語のうち、影山太郎(2010: 4-8)⁽⁶⁴⁾が「語⁺の接頭辞」と呼ぶタイプの接頭辞を含む派生語(전-이사, 현-이사, 각-이론, 각-일간지, 각-임원, 전-인류, 전-인민)は、休止を志向するインフォーマントも複数いた。ただし、全体的な割合として見ると、終声の初声化を志向するインフォーマントが圧倒的に多く、必ず2つのアクセント句に分かれ、短い休止を伴う日本語の事情とは大きく異なる。この点において、朝鮮語では「語⁺の接頭辞」と他の接頭辞との境界が曖昧であり、さらなる検討が必要だと思われる。⁽⁶⁵⁾

한국-일본어학회では休止実現率が高いが、これはこの語が한국-[일본어학회]という右枝分かれ構造であることが効いているのだろう。左枝分かれ構造の[한국-인형]협회では100.0%終声の初声化が起きるのに対し、右枝分かれ構造の한국-[인형협회]では休止実現率が高いのも、枝分かれ構造が大きく作用している。

3.2. 漢字語合成語に準ずるもの

本節では、漢字語人名(姓+名)をはじめ、漢字語合成語に準ずるものの〈n挿入〉について論ずる。

3.2.1. 漢字語人名(姓+名)

〈n挿入〉は、韓国人の姓と名の間でも起こりうる。調査対象とした

現代朝鮮語における〈n挿入〉の実現実態について(1) (辻野裕紀) (37)

漢字語人名 (姓+名) は全33語である。

漢字語人名 (姓+名) において, 〈n挿入〉の実現如何に最も大きく関わっていると考えうるのは, 「後行要素の頭音」と「後行要素の第1音節の音節構造」(後行要素の頭音が /y/ の場合) である。

まず, 3.1. の漢字語合成語と同じく, 後行要素 (=名) が /i/ で始まる場合, 〈n挿入〉はほとんど起きない:

①名が /i/ で始まる姓名 (全8語): 〈n挿入〉平均実現率0.4%

語	n	終	休
길-인숙	3.0%	97.0%	0.0%
강-인숙	0.0%	100.0%	
김-이철	0.0%	100.0%	0.0%
김-인문	0.0%	100.0%	0.0%
김-인숙	0.0%	100.0%	0.0%
박-인숙	0.0%	100.0%	0.0%
섭-인숙	0.0%	100.0%	0.0%
안-인숙	0.0%	100.0%	0.0%

一方, /y/ で始まる名の場合, インフォーマントによって揺れが見られるが, 「後行要素 (=名) の第1音節の音節構造」が〈n挿入〉の実現如何に関与している。後行要素の第1音節が軽音節の場合には〈n挿入〉が起きやすく, 重音節の場合には起きにくい。これは, 3.1. で扱った漢字語合成語一般における〈1音節漢字語形態素+2音節漢字語〉で見られた, 後行要素の第1音節の音節構造の差異による〈n挿入〉実現率の違いと軌を一にするものである。

②名が /y/ で始まりかつその第1音節が軽音節の姓名 (全12語):
〈n挿入〉平均実現率65.4%

語	n	終	休
길- ⁽⁶⁶⁾ 윤희	87.9%	12.1%	0.0%
문-유경	87.9%	12.1%	0.0%

길-예은	84.8%	15.2%	0.0%
손-예진	84.8%	15.2%	0.0%
김-예은	81.8%	18.2%	0.0%
김-유경	78.8%	21.2%	0.0%
김-유신	63.6%	36.4%	0.0%
김-윤희	63.6%	36.4%	0.0%
섭-유경	60.6%	39.4%	0.0%
정-약용	48.5%	51.5%	
박-예진	27.3%	72.7%	0.0%
박-유자	15.2%	84.8%	0.0%

③名が /y/ で始まりかつその第1音節が重音節の姓名(全13語):
 〈n挿入〉平均実現率10.7%

語	n	終	休
한-용운	51.5%	48.5%	0.0%
길-영주	36.4%	63.6%	0.0%
남-윤진	24.2%	75.8%	0.0%
김-양도	9.1%	90.9%	0.0%
남-영신	6.1%	93.9%	0.0%
한-용기	6.1%	93.9%	0.0%
김-용택	3.0%	97.0%	0.0%
신-윤복	3.0%	97.0%	0.0%
강-연숙	0.0%	100.0%	
김-영숙	0.0%	100.0%	0.0%
박-용수	0.0%	100.0%	0.0%
방-연숙	0.0%	100.0%	
손-연재	0.0%	100.0%	0.0%

ところで、上の姓名のうち、박-예진、박-유자는、後行要素の第1音節が軽音節であるにも関わらず〈n挿入〉実現率が低い。これは、先行要素の末音が閉鎖音 /g/ であることに因ると思われる。既に見たように、固有語でも漢字語でも、先行要素の末音が閉鎖音の場合には〈n挿入〉

実現率が相対的に低くなる傾向があるが, 박-예진, 박-유자의場合は,特に際立って〈n 挿入〉実現率が低い。これはおそらく, 先行要素の末音が閉鎖音であることに加えて, もし〈n 挿入〉が生じてしまうと, 各々の発音が [방네진], [방뉴자] となって, 姓が방(方)氏の場合と区別がつかなくなってしまうことも影響しているのだろう。

정-약용の〈n 挿入〉実現率が50%を下回っているのも, 先行要素の末音が /ŋ/ であることと関わりがあろう。既に述べたように, 先行要素の末音が /ŋ/ の場合の〈n 挿入〉は機能的に剰余的である。

섭-유경は, 〈n 挿入〉実現率が50%を上回っているとはいえ, 後行要素を同じくする문-유경, 김-유경に比べると相対的に〈n 挿入〉が起きにくいと言えるが, これも先行要素が閉鎖音 /b/ であることが関与していると思われる。また, 섭⁽⁶⁷⁾(葉) という姓は非常に少なく, なじみ度も関係しているかもしれない。

一方, 한-용운は, 後行要素の第1音節が重音節であるにも関わらず〈n 挿入〉実現率が50%を超えている。その理由は分明ではないが, 先行要素の末音が共鳴音の /n/ であること, 歴史上の著名な人物名であることなどが相俟って, 〈n 挿入〉が起きやすくなっているのかもしれない。

なお, いずれの姓名においても, 休止実現率は0.0%であり, 姓と名が常に別々のアクセント句で実現される, 日本語における姓名の発音のありかたと対照的である。

3.2.2. 姓+肩書等

〈姓+肩書等〉において〈n 挿入〉がいかに生じるかについても調査した。ここでの「肩書等」とは, 양《嬢》, 여사《女史》, 영사《領事》, 이사《理事》の4語である。調査対象としたのは全24語である。

〈姓+肩書等〉において, 〈n 挿入〉の実現如何に最も大きく関わっていると考えるのは, 漢字語人名と同じく, 「後行要素の頭音」と「後行要素の第1音節の音節構造」(後行要素の頭音が /y/ でかつその長さが2音節の場合) である。

まず, 後行要素が /i/ で始まる〈姓+이사〉の場合には, 〈n 挿入〉が

基本的に起きない：

〈姓+이사〉(全6語)：〈n挿入〉平均実現率4.0%

語	n	終	休
길-이사	15.2%	84.8%	0.0%
강-이사	3.0%	97.0%	
섭-이사	3.0%	97.0%	0.0%
안-이사	3.0%	97.0%	0.0%
김-이사	0.0%	100.0%	0.0%
박-이사	0.0%	100.0%	0.0%

一方、後行要素が /y/ で始まる 〈姓+여사〉, 〈姓+영사〉, 〈姓+양〉
 の場合は、インフォーマントによる揺れが観察されるが、〈姓+여사〉, 〈姓
 +영사〉では漢字語人名と同じ傾向が見られる。すなわち、後行要素の
 第1音節が軽音節の〈姓+여사〉の場合には〈n挿入〉が比較的起きや
 すく、後行要素の第1音節が重音節の〈姓+영사〉の場合には〈n挿入〉
 が起きにくい：

〈姓+여사〉(全6語)：〈n挿入〉平均実現率55.6%

語	n	終	休
길-여사	90.9%	9.1%	0.0%
안-여사	69.7%	30.3%	0.0%
김-여사	63.6%	36.4%	0.0%
섭-여사	42.4%	57.6%	0.0%
박-여사	36.4%	63.6%	0.0%
강-여사	30.3%	69.7%	

〈姓+영사〉(全6語)：〈n挿入〉平均実現率20.7%

語	n	終	休
길-영사	60.6%	36.4%	3.0%
강-영사	18.2%	81.8%	

섭-영사	15.2%	81.8%	3.0%
안-영사	15.2%	81.8%	3.0%
김-영사	12.1%	81.8%	6.1%
박-영사	3.0%	93.9%	3.0%

ただし, 섭-여사, 박-여사, 강-여사においては, 〈n 挿入〉実現率が50%を下回っており, これは先行要素の末音が閉鎖音や /ŋ/ であることと関わりがあろう。박-여사については, 3.2.1. で見た漢字語人名と同じく, 姓が망の場合との関係も影響しているかもしれない。

길-영사의 〈n 挿入〉実現率が他の語に比べて突出して高く現れているのは, 先行要素の末音が /t/ であることが関与していると思われる。

〈姓+양〉の〈n 挿入〉実現率等は次の通りである：

〈姓+양〉(全6語)：〈n 挿入〉平均実現率51.0%

語	n	終	休
길-양	84.8%	15.2%	0.0%
김-양	66.7%	30.3%	3.0%
강-양	54.5%	45.5%	
안-양	42.4%	57.6%	0.0%
섭-양	36.4%	63.6%	0.0%
박-양	21.2%	78.8%	0.0%

後行要素の頭音が /y/ であることが作用してか, 〈n 挿入〉平均実現率は50%を超えている。

섭-양, 박-양의 〈n 挿入〉実現率が他の語に比べて低く現れているのは, これもやはり先行要素の末音が閉鎖音であることに因るものであろう。안-양의 〈n 挿入〉実現率が50%を下回っているのは一見存外の結果であるが, これは, 固有語合成語で見た, 손-일의 〈n 挿入〉実現率が低いと同じ理由が考えられる。

3.2.3. 姓名+肩書等

〈姓名+肩書等〉において〈n挿入〉がいかに生じるかについても調査した。ここでの「肩書等」も3.2.2.と同じく, 양《嬢》, 여사《女史》, 영사《領事》, 이사《理事》の4語である。調査対象としたのは全16語である。

〈姓名+肩書等〉において, 〈n挿入〉の実現如何に最も大きく関わっていると考えるのは, 「後行要素の頭音」である。

まず, 後行要素が /l/ で始まる 〈姓名+이사〉の場合には, 〈n挿入〉が基本的に起きず, 大半のインフォーマントで終声の初声化が起きる:

〈姓名+이사〉(全3語): 〈n挿入〉平均実現率5.0%

語	n	終	休
이영길-이사	9.1%	81.8%	9.1%
김영숙-이사	3.0%	93.9%	3.0%
김정훈-이사	3.0%	90.9%	6.1%

一方で, 後行要素が /y/ で始まる 〈姓名+여사〉, 〈姓名+영사〉の場合には, 終声の初声化がほとんど起きず, 〈n挿入〉か休止が生じる:

〈姓名+여사〉(全5語): 〈n挿入〉平均実現率45.5%

語	n	終	休
이영숙-여사	66.7%	9.1%	24.2%
이영일-여사	57.6%	0.0%	42.4%
이영인-여사	45.5%	0.0%	54.5%
이영임-여사	42.4%	0.0%	57.6%
이민경-여사	15.2%	84.8%	

〈姓名+영사〉(全3語): 〈n挿入〉平均実現率82.8%

語	n	終	休
이영길-영사	97.0%	0.0%	3.0%

이영인-영사	81.8%	0.0%	18.2%
이영숙-영사	69.7%	12.1%	18.2%

〈姓名+여사〉では〈姓名+영사〉に比べ、〈n 挿入〉平均実現率が低く現れ、その分、休止実現率が高く現れている。また、先行要素の末音が閉鎖音 /g/ である이영숙-여사의 〈n 挿入〉実現率が最も高く現れている点の特異である。これらが単なる偶然なのか何らかの原因があるのかは分明ではない。

いずれにせよ、〈姓名+여사〉でも〈姓名+영사〉でも終声の初声化は起きにくく、〈n 挿入〉ないし休止によって形態素境界が明瞭に示されている。〈姓+여사〉、〈姓+영사〉と較べて休止実現率が高く現れているのは、語全体の長さが原因であろう。固有語疊語や漢字語合成語でも観察されたように、語が長くなると、休止を志向する傾向があるようである。

〈姓名+양〉の場合は、大半のインフォーマントで〈n 挿入〉が生じた。姓名が閉鎖音や /ŋ/ で終わる場合の 〈n 挿入〉実現率はやや下がる：

〈姓名+양〉(全 5 語) : 〈n 挿入〉平均実現率 90.3%

語	n	終	休
김수진-양	100.0%	0.0%	0.0%
김이설-양	100.0%	0.0%	0.0%
김혜림-양	90.9%	3.0%	6.1%
김경숙-양	81.8%	12.1%	6.1%
김선경-양	78.8%	21.2%	

3.2.4. 姓名+역(訳)

〈姓名+역(訳)〉についても見てみよう。調査対象としたのは全 6 語である。

この場合も、後行要素の역が /y/ で始まるという点が強く効いており、いずれの姓名に역が結合しても、半数以上のインフォーマントで〈n 挿入〉

入)が生じた。先行要素の末音が /n/, /r/ のような共鳴音の場合は〈n 挿入〉がより起きやすく, /g/ や /b/ のような閉鎖音, /ŋ/ の場合の〈n 挿入〉実現率はやや下がり, その分, 休止実現率が高い。終声の初声化はほとんど起きない:

〈姓名+역(訳)〉(全6語): 〈n 挿入〉平均実現率76.8%

語	n	終	休
권재일-역	97.0%	0.0%	3.0%
이기문-역	97.0%	0.0%	3.0%
이옥-역	72.7%	6.1%	21.2%
이익섭-역	69.7%	0.0%	30.3%
이어령-역	66.7%	33.3%	
고종석-역	57.6%	6.1%	36.4%

3.2.5. 本貫+姓

〈本貫+姓〉について調査対象としたのは全4語である。

〈本貫+姓〉において, 〈n 挿入〉の実現如何に最も大きく関わっていると考えるのは, 「後行要素の頭音」である。

まず, 後行要素が /i/ で始まる경원 이 씨では〈n 挿入〉が全く起きない。これは, 漢字語合成語などにおいて /i/ の前で〈n 挿入〉がほとんど起きないことと軌を一にするものである。

一方, 後行要素が /y/ で始まる他の3つでは〈n 挿入〉が起きやすいが, その実現率は남원 양 씨と평택 양 씨, 삼척 양 씨とで異なる。これには先行要素の末音が影響しているものと思われる。高い比率で〈n 挿入〉が起きる남원 양 씨の先行要素の末音は共鳴音 /n/ であるのに対し, 남원 양 씨に比べて〈n 挿入〉実現率が大きく下がる평택 양 씨および삼척 양 씨の先行要素の末音は閉鎖音 /g/ である。

現代朝鮮語における〈n 挿入〉の実現実態について(1) (辻野裕紀) (45)

姓の頭音が /y/ の〈本貫+姓〉(全3語) : 〈n 挿入〉平均実現率66.7%

語	n	終	休
남원 양 씨	87.9%	6.1%	6.1%
평택 양 씨	57.6%	18.2%	24.2%
삼척 양 씨	54.5%	18.2%	27.3%

姓の頭音が /i/ の〈本貫+姓〉(全1語) : 〈n 挿入〉平均実現率0.0%

語	n	終	休
경원 이 씨	0.0%	97.0%	3.0%

3.2.6. 漢数詞

漢数詞を複数並べて読みあげる際にも、〈n 挿入〉が起こりうる。本調査では、次のような電話番号をインフォーマントに読み上げてもらった：

010-7161-1272 (공일공 칠일육일 일이칠이)
011-3681-3182 (공일일 삼육팔일 삼일팔이)

これらの電話番号で、〈n 挿入〉が起きる可能性のある箇所は次の通りである：

공-일, 삼-육, 삼-일, 육-일, 일-육, 일-이, 일-일, 칠-이, 칠-일, 팔-이, 팔-일

漢数詞については、インフォーマントによる揺れがほとんど見られず、後行要素の頭音が〈n 挿入〉の実現如何に決定的に関与している。すなわち、後行要素の頭音が /y/ の場合 (육 《六》) は必ず〈n 挿入〉が起き、/i/ の場合 (일 《一》, 이 《二》) は起きない。

ただし、興味深いことに、일일 《一一》と일이 《一二》は例外であり、後行要素の頭音が /i/ であるにも関わらず、〈n 挿入〉が起きる。これらは頻度が圧倒的に高い組合せであり、生産的な〈n 挿入〉によるものと

いうよりは、語彙化した発音だと言えよう⁽⁶⁸⁾：

後行要素の頭音が /y/ の漢数詞（全2語）：〈n挿入〉平均実現率100.0%

語	n	終	休
삼-육	100.0%	0.0%	0.0%
일-육	100.0%	0.0%	0.0%

後行要素の頭音が /i/ の漢数詞（全9語）：〈n挿入〉平均実現率21.5%

語	n	終	休
일-일	100.0%	0.0%	0.0%
일-이	93.9%	6.1%	0.0%
공-일	0.0%	100.0%	
삼-일	0.0%	100.0%	0.0%
육-일	0.0%	100.0%	0.0%
칠-이	0.0%	100.0%	0.0%
칠-일	0.0%	100.0%	0.0%
팔-이	0.0%	100.0%	0.0%
팔-일	0.0%	100.0%	0.0%

漢数詞の羅列にあつて、後行要素の頭音が〈n挿入〉の実現如何を統べていることは、次のような語でも容易に確認しうる：

語	日本語訳	n	終	休
삼팔-육 세대	386세대	100.0%	0.0%	0.0%
삼-일절	3・1節	0.0%	100.0%	0.0%
육-이오	6・25 (朝鮮戦争)	0.0%	100.0%	0.0%

4. おわりに

以上、若年層ソウル方言話者を対象とした〈n挿入〉実現実態調査の結果の記述、分析を行なってきた。最後にその梗概を整理し、本稿の総括をすることとする。

まず、固有語については、〈固有語合成語〉、〈固有語疊語〉、〈固有語単語 + (ㅇ)요〉について論じた。

固有語合成語において〈n挿入〉実現如何に最も大きく関わっているのは、「後行要素の頭音」と「後行要素の長さ」（後行要素の頭音が /i/ の場合）である。後行要素の頭音が /y/ の場合は総じて〈n挿入〉が起きやすい。後行要素の頭音が /i/ の場合は、後行要素の長さが1音節のものは〈n挿入〉が起きやすく、2音節以上のものは〈n挿入〉が起きにくい。また、他に「先行要素の末音（共鳴音か閉鎖音か）」、「なじみ度」、「語構造（複合語か派生語か）」も〈n挿入〉実現如何に関与する。

固有語疊語においても、後行要素の頭音が /y/ の場合は〈n挿入〉が起きやすく、/i/ の場合は起きにくい。他に「先行要素の末音」や「語の長さ」も〈n挿入〉実現如何に関わっている。語が長い場合には、休止を志向する傾向がある。

〈固有語単語 + (ㅇ)요〉については、「丁寧さ」を表す補助詞 {요} の2つの異形態 /요/, /ㅇ요/ のうち、どちらがより現れやすいか、またその際〈n挿入〉が生じるか否かについて調べた。その結果、子音で終わる固有語単語には専ら /ㅇ요/ が付き、その際〈n挿入〉は生じないことが明らかになった。ほぼ唯一の例外は 정말요 [정말료] だが、これは意味的・機能的に考えて間投詞的であり、語彙化した発音だと考えられる。

漢字語については、〈漢字語合成語〉、〈漢字語人名〉、〈姓 + 肩書等〉、〈姓名 + 肩書等〉、〈姓名 + 訳(訳)〉、〈本貫 + 姓〉、〈漢数詞〉について論じた。

漢字語合成語において〈n挿入〉実現如何に最も大きく関わっているのは、「後行要素の頭音」である。後行要素の頭音が /y/ の場合は一体に〈n挿入〉が起きやすく、後行要素の頭音が /i/ の場合は〈n挿入〉が基本的に起きない。固有語合成語と異なり、後行要素の長さは問わない。また、固有語と同じく「先行要素の末音」も関与する。さらに、後行要素の頭音が /y/ であっても、〈1音節漢字語形態素 + 1音節漢字語形態素〉、〈1音節漢字語形態素 + 重音節で始まる2音節漢字語〉といった構造のものは概して〈n挿入〉が起きにくい。3つ以上の自立語からなる漢字語合成語は「語構造（枝分かれ構造）」も関わる。

漢字語人名では、「後行要素の頭音」と「後行要素の第1音節の音節構造」(後行要素の頭音が /y/ の場合)が〈n挿入〉実現如何に大きく関わっている。漢字語合成語と同じく、後行要素の頭音が /i/ の場合には〈n挿入〉が基本的に起きない。後行要素の頭音が /y/ の場合には、後行要素の第1音節が軽音節のものは〈n挿入〉が起きやすく、重音節のものは起きにくい。また、他に「先行要素の末音」や「なじみ度」なども関わっている。

〈姓+肩書等〉でも、〈漢字語人名〉と概ね同じ傾向が観察された。

〈姓名+肩書等〉でも、漢字語合成語と同じく、「後行要素の頭音」がよく効いている。後行要素が여사や영사の場合、休止実現率が高く、その分〈n挿入〉実現率が低くなっているが、これは「語の長さ」が原因であろう。固有語暈語でも観察されたように、語が長い場合には休止を志向するようである。

〈姓名+역(訳)〉でも、後行要素の頭音が /y/ であることが作用し、概して〈n挿入〉が起きやすい。先行要素の末音も〈n挿入〉実現如何に聊か関与し、姓名の末音が閉鎖音の場合の〈n挿入〉実現率はやや下がる。

〈本貫+姓〉の〈n挿入〉実現如何も他の漢字語合成語のそれと軌を一にする。

漢数詞では、「後行要素の頭音」が完全に〈n挿入〉実現如何を統べている。後行要素の頭音が /y/ の場合は〈n挿入〉が起き、後行要素の頭音が /i/ の場合は〈n挿入〉が起きない。インフォーマントによる揺れもほとんど見られない。例外は, 일일[일릴]《一一》と 일이[일리]《一二》だが、これらは頻度が圧倒的に高い組合せであり、語彙化した発音だと思われる。

そして、以上のような結果は、いわゆる規範と懸隔している。국립국어연구원(1999)の記述では〈n挿入〉が起きることになっていても、実際には起きない、あるいは起きにくいものが数多存在し、〈n挿入〉の実現如何には、後行要素の頭音をはじめ、後行要素の長さ、先行要素の末音、なじみ度、語構造、後行要素の第1音節の音節構造、語の長さなどといった多種多様な要因が抗衡しつつ、複合的に闘ぎ合い、重層的に

現代朝鮮語における〈n 挿入〉の実現実態について(1) (辻野裕紀) (49)

関与していることが明らかになったのである。この事実は極めて重要である。これまでも一部の先行研究によって、規範と言語事実が一致しないことが指摘されてはきたものの、いずれの研覈も調査語彙数や調査人数の貧弱さ、調査方法の欠陥などによって必ずしも信頼に値するものとは言い得なかった。しかし、本調査で、分節音や語構造、語種、なじみ度などが異なる広範な語句を緻密に調査、分析したことで、若年層ソウル方言話者における〈n 挿入〉の実現実態がより鮮明に浮かび上がってきたと言えよう。そして、この調査資料と分析結果は、「前の要素が子音で終わり、後ろの要素が /i/ か /y/ で始まる時、/n/ が挿入されること(69)がある」などといった曖昧な筆致で〈n 挿入〉の説明を糊塗してきた朝鮮語教材の記述の改善にも直接的に裨益しうるものである。

本調査では、対象を若年層に局限したため、非若年層話者における〈n 挿入〉の実現実態の究明については今後の課題とするが、以上闡明した、規範と乖離しているという確乎たる言語事実と、1.3.でも触れた「若い層の話者ほど〈n 挿入〉が起きにくい」という先行研究の見解を勘案するならば、〈n 挿入〉という形態音韻論的現象は現在、変化過程の真っ直中にあると言える。18世紀後半に生じた、語頭における /i, y/ の直前の /n/ の脱落という音韻変化に端を発する〈n 挿入(70)〉は、今將にダイアクロニーの新たなエタップ (étape) への過渡期にあるのである。本稿は、そうした変化のダイナミクス的一端を描いたものであり、向後〈n 挿入〉がいかなる変遷を遂げていくか注視したい。

【附記】本研究は、平成24年度科学研究費補助金研究活動スタート支援（研究課題番号：24820032）「現代朝鮮語における〈n 挿入〉の総合的研究」の成果の一部である。

【謝辞】本稿の執筆にあたっては、多くの方々のお力添えを得た。まず、調査の便宜を図ってくださった、安平鎬先生、朴一昊先生はじめ、誠信女子大学校日語日文学科の先生方、崇実大学校の河崎啓剛先生、調査に快く協力してくださったインフォーマントの皆さんに衷心より感謝申し上げる。

また、執筆過程で多くの貴重なご教示を賜った、東京大学の福井玲先生、本田洋先生、生越直樹先生にも深甚なる謝意を表したい。

註

- (1) //内は音素表記であり、本稿の音素表記は趙義成・呉文淑(2004)に依る。
- (2) 〈n挿入〉の方言差の存在については、배주채(1996; 2011: 142)や신지영・차재은(2003; 2004: 305), 辻野裕紀(2012: 30-32)などで触られている。〈n挿入〉をめぐる方言差の仔細な実態把握はまだ未開拓の領域だが、김옥영(2008), 정인호(2010), 後藤祐司(2013)など、最近になってこうした問題に深く分け入ろうとする、新たな研究の曙光も見え始めている。
- (3) 〈n挿入〉が起きなければ、〈終声の初声化〉ないし〈休止〉が生ずる。
- (4) 국립국어연구원(2002), 국경아 외(2005), 오새내(2006), 辻野裕紀(2012)などを参照。
- (5) インフォーマントの人数の決定については、次の記述を参考にした：「分析しようとする最小の属性グループの人数が、少なくとも20人を下回らないようにしたい。これ以下になると、属性間の違いをパーセンテージで比較するときに、1人の占める比率が5%を超えてしまい、個人の回答の影響が大きくなり過ぎる。」(三井はるみ2007: 78)また、〈n挿入〉に男女差も存在する可能性を考慮し、インフォーマントには男女双方を含めたが、性差による著しい差異は観察されなかった。
- (6) 調査は誠信女子大学校(城北区)と崇実大学校(銅雀区)の研究室や教室で行なった。インフォーマントはすべて大学生である。
- (7) 「読み上げ式とは、紙に書いた単語や文をそのまま、あるいは方言に直して読み上げてもらう方式の調査である。」(木部暢子2007: 33)
- (8) なお、こうした調査方法で果たして自然な発音を引き出しうるかという疑問や批判もありえよう。確かに、読み上げ式には、木部暢子(2007: 33)も言うように「一本調子になったり、不自然な調子になったりするという欠点」もあり、日常的な発音と同じ発音が引き出せるという保証は必ずしもない。文字(表記)の影響を受ける可能性も否めない。しかし、限られた調査時間の中で、〈n挿入〉のような頻度がそれほど高くない音韻現象を調べるには、考える調査方法のうち、読み上げ式が最も効率的である。本調査が読み上げ式によってなされたものであるという点を十分に認識した上で、データを眺め、分析、議論することは意義のあることである。
- (9) また、1語として辞書に記載されていないものでも、形態的緊密性(lexical integrity)(形態的緊密性については影山太郎(1993: 10-11, 2010: 2)参照)が認められるものについては、句ではなく、語として扱う。

- (10) 例えば, 갈잎나무の語全体の語構造は [[갈잎]나무] であり, 辞書類では普通갈잎-나무とされるが, 本稿では갈-잎나무とする。
- (11) 本稿では, 単一の形態素から成る語を「単純語 (simple word)」, 複数の形態素から成る語を「合成語 (complex word)」と呼ぶ。また, 「語基+語基」という構造の合成語を「複合語 (compound word)」, 「接頭辞+語基」や「語基+接尾辞」という構造の合成語を「派生語 (derived word)」と称す。語基の自立性は問題にしない。論考によっては, 合成語と複合語が逆になっているものもあるが (北村唯司2007: 677参照), 本稿ではこの定義に依る。
- (12) 後行要素の頭音が /i/ の場合よりも /y/ の場合に 〈n挿入〉がより起こりやすいことについては, 배주채(2003: 241), 국경아 외(2005), 오미라(2006), 엄태수(2010) なども指摘しているところである。一方, 後行要素の長さにまで着目した論考は, 管窺の限り, 見当たらない。
- (13) 小教第二位を四捨五入しており, 厳密には「約」をつけるべきだが省略する。以下提示する 〈n挿入〉実現率等も全て同様。
- (14) 表中の○は국립국어연구원(1999) の見出し語の発音表示において 〈n挿入〉が起きることになっているもの, ×はそうでないもの, △は〈n挿入〉と終声の初声化双方の発音表示があるもの, ?は見出し語として当該の語が登録されていないことを表す。
- (15) 〈n挿入〉実現率。以下の表もすべて同様。
- (16) 終声の初声化実現率。以下の表もすべて同様。
- (17) 休止実現率。以下の表もすべて同様。
- (18) 先行要素の ‘일’ は自立語の일音に由来するものであろう。
- (19) 업신여기다は中期語では업시너지다 (없이+너지다) であり, 업신は없이에遡るものである。
- (20) 例外は뫼-애기《後日談》(100.0%) の1語のみ。
- (21) 例えば, 接尾派生語의지푸라기 (<짚+-으라기)《藁屑》と接頭派生語의첫-아기[처다기]《初子》を比べられたい。
- (22) なお,なじみ度(친숙도)が低い語にあって, 終声の初声化を志向する傾向があることについては, 既に국경아 외(2005)も指摘している。また, 「なじみ度」ということばこそ用いていないが, 菅野裕臣(1965: 25)も「インフォーマントのあまりよく知らない単語結合において第1リエゾンをとることが多い」と述べている (ここでの「第1リエゾン」とは終声の初声化のこと)。
- (23) このように, 話者が日常生活で「耳」で覚えた語か, 文字を通して「目」で覚えた語か, ということが, 音韻現象に影響を及ぼすということは日本語でも観察される。例えば, 現在の東京の言葉において, 「歛(くわ)」, 「稗(ひえ)」などのように, あまり使わない二拍の単語は大体「高低」という音調で発音されるが, これらは本来伝統的な発音では平板型アクセントの語であった。文字

で覚えた二拍の単語は、伝統的な発音とは異なり、「高低」という音調型になる傾向があるのである。上野善道(2008: 60-63)参照。また逆に、一般によく使われる語、なじみの高い語ほど平板式になると言われている。窪菌晴夫(2006: 68)参照。

- (24) また、語全体のなじみ度のみならず、語の各構成要素のなじみ度も〈n挿入〉の実現如何に關与しているかもしれない。例えば, 이삭-여뀌(48.5%)は、「先行要素の末音が閉鎖音」の「複合語」でかつ「なじみ度が低い」という点で갯-양태と全く同じである。しかし, 이삭-여뀌の〈n挿入〉平均実現率は갯-양태(24.2%)より24.3%も高い。これは, 이삭-여뀌の語全体としてのなじみ度は低くとも, 各構成要素のなじみ度は高いからであろう。つまり, 이삭-여뀌という語についてはなじみがなくても, 이삭《穂》, 여뀌《タデ》という各々の構成要素は比較的なじみ度が高い語であり, インフォーマントが形態素境界をよりはっきり意識しているのである。갯-양태の各々の構成要素갯, 양태のなじみ度, とりわけ양태のなじみ度は極めて低いと思われる。なじみ度が低い말-여뀌(90.9%), 실-여치(87.9%)で〈n挿入〉実現率が高いのは, 先行要素の末音が共鳴音という点が大きく關与しているのだろうが, 말《馬》と여뀌《タデ》, 실《糸》と여치《キリギリス》という各々の要素のなじみ度が比較的高いことも影響しているのかもしれない。
- (25) 「雌しべ」という日本語訳だけを考えると, それほどなじみ度が低い語のようには思えないが, 「雌しべ」に相当する朝鮮語としては, 암술개가一般的であり, 암-여의は決して日常語ではない。국립국어연구원(1999)によれば, 암-여의は「암술' 의 전 용어」である。
- (26) ただし, これほどこまでも傾向であり, 絶対的なものではない。例えば, 도리갯-열《殼竿の打ち木》(84.8%), 손톱-여물《歯で手の爪をしきりに噛むこと》(81.8%)などは,なじみ度が低いにも関わらず, 比較的〈n挿入〉実現率が高い。これらは複合語であり, 語のなじみ度よりも語構造のほうが優先されているように見える。
- (27) 後行要素がい《人》の語例を除いた〈n挿入〉平均実現率は81.0%である。
- (28) 떡-は「小さい」, 「幼い」の意の接頭辞。cf. 떡-조개《小さいアワビ》。
- (29) 後行要素がい《人》のものについては, ここでは触れない。
- (30) 高山倫明(2012: 107)は, 日本語の連濁を論じる中で, 「言語が不可避的に変化するかぎり, ある時点で現実に存在するすべての語が, 個人の脳内に属す規則や制約で説明しおおせるはずはない。また, 一個人が記憶する語形が, すべて規則的に生産されるわけでもない。規則による派生と, 単なる語形の記憶があるはずである」と喝破している。このことは, 朝鮮語の〈n挿入〉にもそのまま当てはまると考えられる。
- (31) 「但し終聲ŋは例外で, ŋは初聲に立つことはないから, 母音が續いても

終聲の位置を保つ。例へば, gan 《河》に助詞 'un がついて, [kan-un] であつて, [ka-nun] とはならない。」(河野六郎 1955/1979: 17-18)

- (32) もし例えば, 先行要素の末音が /n/ ではなく /m/ の 밤-일을 [밤일] と発音すると, 意味さえ考慮しなければ, 「밤+일」のみならず, 「바+밀」の可能性もあり, 形態素境界が一意的に決まらない。また, もし〈1音節+1音節〉ではなく, 〈2音節(以上)+1音節〉のもの, 例えば, 마른-일을, [마르닐] と発音すると, 「마르+닐」という可能性はないにせよ, 「마르+일」のほか, 「마+르닐」などといった可能性も一応はあるわけで(르닐という語が存在するかどうかは別として), 形態素境界が一意的には決定されない。
- (33) 他にも「大きなこと」, 「大きな仕事」という字義通りの意味があるが, その場合は語ではなく, 句である。
- (34) うち, [뜨딤따] と発音したインフォーマントは84.8%, [뜨싯따] と発音したインフォーマントは12.1%であり, なぜか [뜨찐따] と発音したインフォーマントも3.0% (1名のみ) いた。
- (35) [머딤따] と発音したインフォーマントはおらず, 全員 [머싯따] と発音していた。
- (36) うち, [비딤따] と発音したインフォーマントは81.8%, [비찐따] と発音したインフォーマントは15.2%であった。また, [비질따] と発音したインフォーマントも3.0% (1名のみ) いた。
- (37) 기세관(1990: 91)などを参照。
- (38) 야금-야금, 아들-아들, 유들-유들.
- (39) 옆-옆이, 알팍-알팍, 야기죽-야기죽.
- (40) 이기죽-이기죽, 이죽-이죽, 일기죽-일기죽.
- (41) この点については, 〈読み上げ式〉という方法に起因する可能性もある。
- (42) 용-용については, 「용-용 죽겠지」という固定された慣用語のみでしか使われないもので, [용용] という形全体が語彙化しているものとも考えることもできるかもしれない。その場合, [용용] という発音は, 文字読みとでも言うべきものである。
- (43) 정말の정은漢字語形態素「正」なので, 정말は厳密には混種語だが, 便宜上, 茲で扱う。
- (44) このうち, [바치요] が90.9%, [바시요] が6.1%, [바디요] が3.0%である。
- (45) 밤요? [바요~밤뇨]
- (46) 죽요? [주교]
- (47) 〈語根+語根〉という構造の漢字語を単純語と見做すか合成語と見做すかは議論の分かれるところだが, ここでは合成語に含めておく。なお, ここでの「語根」という概念については이익섭(1968, 2005)を参照されたい。辻野裕紀(2013: 17-20)の議論も参照のこと。

- (48) 油谷幸利他(1993: 859)では、「병인 양요」と分かち書きされ、発音は [pjo:ninja:njo] となっている。
- (49) ブラケットは語構造を表す。すなわち、[일본-예술]협회는左枝分かれ構造、すなわち「日本芸術に関する協会」を意味する。同様に、일본-[예술협회]は右枝分かれ構造、すなわち「日本にある芸術協会」を意味する。
- (50) 語頭子音が濃音化を起こしているものの、もともとは상욕(常辱)であり、漢字語として扱っておく。
- (51) 油谷幸利他(1993: 794)では [pa:njo:ngu] となっている。
- (52) 油谷幸利他(1993: 1306)では [jomnjom] となっている。
- (53) 語全体として見ると、外来語と漢字語からなる混種語だが、〈n挿入〉が問題となる部分はㅅとㅇ기であり、いずれも漢字語であるので、漢字語に分類しておく。
- (54) 油谷幸利他(1993: 248)では [kuwnjɔl] となっている。
- (55) 油谷幸利他(1993: 262)では [kuwnjɔl] となっている。
- (56) 油谷幸利他(1993: 1547)では [tʃɔnjɔm] となっている。
- (57) 油谷幸利他(1993: 538)では [toŋbanjeidzigu^k] となっている。また、菅野裕臣他共編(1988; 1991: 627)では [toŋbanjewidzigu^k] と [toŋbanjeidzigu^k] の双方の発音が出ている。
- (58) 油谷幸利他(1993: 828)では [peŋnɔl] となっている。
- (59) ここでの「語根」という概念は、이익섭(1968, 2005)に依る。「語幹」も同様。
- (60) 신-용산역(45.5%), 신-연수역(18.2%), 남-양주(0.0%)に関しては、音節構造のみならず、これらが地名であることも関係しているかもしれない。地名であるために、形態素境界が意識されず、あたかも単純語のごとく発音された結果とも考えられる。
- (61) 日本語における複合語アクセントや連濁と枝分かれ構造との関係については、佐藤大和(1989)、窪蘭晴夫(1995)、三宅知宏(2011)などを参看されたい。
- (62) 油谷幸利他(1993: 1569)では [tʃɔjulli:ʃi] となっている。
- (63) 〈読み上げ式〉という方法に起因する、インフォーマントの読み間違いという可能性も否定できない。
- (64) 影山太郎(2010)は、日本語の「前大統領」、「国立大学」、「現会長」の「前」、「全」、「現」などのように、「それ自体が高いアクセントを持ち、その直後に短い休止(ポーズ)を伴うという音声的な特徴を持つ」接頭辞を「語⁺の接頭辞」と呼んでいる。日本語における「語⁺」という概念については、影山太郎(1993)などでも夙に論じられているが、影山太郎(2010)では、中国語や朝鮮語における「語⁺の接頭辞」についても触れている。日本語と朝鮮語の語⁺の接頭辞については、塚本秀樹(1997: 205-206)にも言及がある。

現代朝鮮語における〈n挿入〉の実現実態について(1) (辻野裕紀) (55)

- (65) なお、影山太郎 (2010) は, 전 미국 대통령, 각 지방도시といった, 終声の初声化がそもそも起きえない例のみを挙げ, 朝鮮語でも「日本語と同じ状況が観察される」としているが, 本研究の結果からすると, この結論は穏当ではない。
- (66) 表記上は ‘윤희’ と書くが, 実際の発音は [유니] なので, 後行要素の第1音節は軽音節である。정-약용の ‘약용’ も同じく, 発音は [야공] なので, 정-약용の後行要素の第1音節は軽音節である。
- (67) 접という姓を初めて聞いたというインフォーマントも複数いたほどである。
- (68) 일일이 《いちいち, ひとつひとつ》, 일이 《一, 二の》といった慣用化された語があることも想起されたい。
- (69) 一方で, 〈n挿入〉には構成要素の意味的關係(修飾關係, 等位關係, 格關係)は関与しないようである。
- (70) 〈n挿入〉の発生論については, 곽광모(1991, 1992), 辻野裕紀(2014)などを参照されたい。

参考文献

(1) 日本語文献

- 上野善道 (2008) 「母は昔はパパだった, の言語学」, 大津由紀雄編『ことばの宇宙への旅立ち—10代からの言語学』, 東京: ひつじ書房。
- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』, 東京: ひつじ書房。
- 影山太郎 (2010) 「日本語形態論における漢語の特異性」, 大島弘子・中島晶子・ブラン, ラウル編『漢語の言語学』, 東京: くろしお出版。
- 菅野裕臣 (1965) 「現代朝鮮語のリエーションについて」, 『朝鮮学報』36, 天理: 朝鮮学会。
- 菅野裕臣・早川嘉春・志部昭平・浜田耕策・松原孝俊・野間秀樹・塩田今日子・伊藤英人共編 (1988; 1991) 『コスモス朝和辞典 第2版』, 金周源・徐尚揆・浜之上幸協力, 東京: 白水社。
- 北村唯司 (2007) 「造語論からの接近」, 野間秀樹編著『韓国語教育論講座 第1巻』, 東京: くろしお出版。
- 木部暢子 (2007) 「調査方法を選ぶ」, 小林隆・篠崎晃一編 (2007) 所収。
- 窪園晴夫 (1995) 『語形成と音韻構造』, 東京: くろしお出版。
- 窪園晴夫 (2006) 『アクセントの法則』, 東京: 岩波書店。
- 河野六郎 (1955) 「朝鮮語」, 服部四郎・市河三喜編『世界言語概説 下巻』, 東京: 研究社。【河野六郎 (1979) に再録されている】
- 河野六郎 (1979) 『河野六郎著作集1』, 東京: 平凡社。
- 後藤祐司 (2013) 「丁寧化マーカー ‘-yo’ と n挿入現象に見られる方言差」, 『あり

- あけ 熊本大学言語学論集』12, 熊本: 熊本大学文学部言語学研究室.
- 小林隆・篠崎晃一編(2007)『ガイドブック方言調査』, 東京: ひつじ書房.
- 佐藤大和(1989)「複合語におけるアクセント規則と連濁規則」, 杉藤美代子編『講座日本語と日本語教育 第2巻 日本語の音声・音韻(L)』, 東京: 明治書院.
- 高山倫明(2012)『日本語音韻史の研究』, 東京: ひつじ書房.
- 趙義成・吳文淑(2004)「朝鮮語」, 『言語情報学研究報告4 通言語音声研究 音声概説・韻律分析』, 東京: 東京外国語大学大学院地域文化研究科21世紀 COE プログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」.
- 塚本秀樹(1997)「語彙的な語形成と統語的な語形成 一日本語と朝鮮語の対照研究一」, 国立国語研究所『日本語と外国語との対照研究IV 日本語と朝鮮語(T)』, 東京: くろしお出版.
- 辻野裕紀(2012)「現代朝鮮語の〈n挿入〉をめぐって—形態論的条件と語種論的条件を中心に—」, 『外国語教育研究』15, 東京: 外国語教育学会.
- 辻野裕紀(2013)「言語形式の自立性と音韻現象—現代朝鮮語の〈n挿入〉を対象として—」, 『朝鮮学報』229, 天理: 朝鮮学会.
- 辻野裕紀(2014)「現代朝鮮語の〈n挿入〉に関する一考察—発生論と機能論—」, 『韓国朝鮮文化研究』13, 東京: 東京大学大学院人文社会系研究科韓国朝鮮文化研究室.
- 三井はるみ(2007)「さまざまな準備」, 小林隆・篠崎晃一編(2007)所収.
- 三宅知宏(2011)『日本語研究のインターフェイス』, 東京: くろしお出版.
- 油谷幸利・門脇誠一・松尾勇・高島淑郎(1993)『朝鮮語辞典』, 東京: 小学館.

(2) 朝鮮語文献

- 고광모(1991)「ㄴ첨가와 사이시옷에 관하여」, 『언어연구』3, 서울: 서울대학교 언어학과.
- 고광모(1992)「ㄴ첨가와 사이시옷에 대한 연구」, 『언어학』14, 서울: 한국언어학회.
- 국경아・김주원・이호영(2005)「선호도 조사를 통한 ㄴ첨가 현상의 실현 양상 연구」, 『말소리』53, 서울: 대한 음성학회.
- 국립국어연구원(1997)『서울 토박이말 자료집(I)』, 최혜원(담당 연구원), 서울: 국립국어연구원.
- 국립국어연구원(1999)『표준국어대사전』, 서울: 두산동아.
- 국립국어연구원(2002)『표준 발음 실태 조사』, 최혜원(연구 책임), 권미영・황연신(공동 연구), 서울: 국립국어연구원.
- 국립국어연구원(2003)『표준 발음 실태 조사II』, 김선철(연구 책임), 권미영・황연신(공동연구), 서울: 국립국어연구원.
- 기세관(1990)『국어 단어형성에서의 /ㄹ/ 탈락과 /ㄴ/ 첨가에 대한 음운론적 연구』, 원광대학교 대학원 박사박위논문.

現代朝鮮語における〈n 挿入〉の実現実態について(1) (辻野裕紀) (57)

- 김옥영(2008)「ㄴ-첨가 현상의 제약: 강릉 지역어를 대상으로」, 『음성·음운·형태론 연구』14-1, 대구: 한국음운론학회.
- 배주채(1996; 2011)『국어음운론 개설』, 성남: 신구문화사.
- 배주채(2003)『한국어의 발음』, 서울: 삼경문화사.
- 신지영·차재은(2003; 2004)『우리말 소리의 체계』, 서울: 한국문화사.
- 엄태수(2010)「ㄴ-첨가에 대한 표준어 규정의 연구」, 『국제어문』50, 서울: 국제어문학회.
- 오미라(2006)「ㄴ-삽입 환경의 재검토」, 『언어학』14-3, 논산: 대한언어학회.
- 오새내(2006)『현대국어의 형태음운론적 변이 현상에 대한 사회언어학적 연구』, 고려대학교 대학원 박사학위논문.
- 이익섭(1968)「한자어 조어법의 유형」, 『이승녕박사 송수기념논총』, 서울: 을유문화사.
- 이익섭(2005)『한국어 문법』, 서울: 서울대학교출판문화원.
- 정인호(2010)「ㄴ-첨가 관련 현상의 방언 비교」, 『방언학』10, 광주: 한국방언학회.

(九州大学大学院専任講師)